公益社団法人 NEXT VISION 御中

isee! innovation connections

報告書

2018年3月12日（月）

株式会社グリーンアップル

isee! innovation connections　概要

実施概要

- 企画名　**isee! innovation connections**
- 主催　公益社団法人NEXT VISION
- 共催　バイエル薬品株式会社

エキシビション

- 日時　2018年1月15日（月）～2018年1月21日（日）　9:00～17:00
- 会場　神戸アイセンター2階 Vision Park（ビジョンパーク）

isee! innovation connections

- 日時　1月21日（日）12:30～16:30（一般受付開始 11:30）
- 会場　神戸アイセンター2階 Vision Park（ビジョンパーク）
- 構成　視覚障害の”今”を知ること × 新しいデジタルヘルステクノロジーの開発で、視覚障害者のさらなる社会復帰促進を目指します。

  重篤な眼疾患治療から社会生活への復帰支援までを担うワンストップセンターとして、新たな複合施設『神戸アイセンター』がオープンします。
  そのオープンを記念して、2018年1月21日(日)、同会場にて『isee! innovation conections』を開催します。
  視覚障害者の”就労”に焦点をあて、その事例やアイデアが社会に広く認知されることを目的とした『isee! “Working Awards”2018』。
  ＜眼疾患患者さんをサポートする革新的なソリューション＞をテーマにした、デジタルヘルステクノロジー助成プログラム
  『第4回 Grants4Apps Tokyo』。この2つのアワードの共同開催となる『isee! innovation conections』では、一人でも多くの方に視覚障害者の可能性を知ってもらい、デジタルテクノロジーの力で、視覚障害者のよりよい暮らしと就労を支援することを目的としています。

- 内容　●12:30～14:00

  『第4回 Grants4Apps Tokyo』最終選考会

  『第4回 Grants4Apps Tokyo』の最終選考にノミネートされた5チームによるソリューションの発表を実施します。

  ● 14:00～14:30［三宅琢氏講演］／［事例紹介：サンキューカード］
  ● 14:30～15:00［休憩］

  ● 15:00～16:30

  『isee! “Working Awards”2018』&『第4回 Grants4Apps Tokyo』表彰式

  『isee! “Working Awards”2018』の受賞者・入選者と『第4回 Grants4Apps Tokyo』の受賞者を表彰します。
  表彰式終了後には、髙橋政代氏による特別講演を行います。

isee! “Working Awards”に関して

isee! “Working Awards” 概要（１）

■ コンテスト　**isee! “Working Awards”**

目的

視覚障害者がいきいきと活躍する姿を知ってもらい、さらなる社会復帰を促進していきます。

日本の視覚障害者は164万人、このうち全盲は18,8万人、145万人がロービジョン（弱視）と言われていますが、そのすべての人が学び、働き、趣味やスポーツを楽しみながら生き生きとした生活を送ることが可能です。しかし、「就労」だけを取り上げてみると、ハローワークを通じた障害者の就職件数は、77,883件。うち身体障害者全体の就職件数28,307件中、視覚障害者の就職件数は2,364件と障害者全体の約3%にしかならず（平成25年度データ）、残念ながらまだまだ視覚障害者の就労件数が少ないことがわかります。これは、企業の人事担当者を対象とした意識調査で視覚障害者が最も採用のハードルが高いと感じるという回答が多いことからも裏付けられます。「isee! "Working Awards"」は「就労」に焦点をあて、視覚障害者（見えない、見えにくい人）がどのように働いているのか【事例】、また、どうすれば働けるのか、あるいはどんな働き方ができるか【アイデア】を募集し、【事例】【アイデア】を通じて視覚障害者だけでなく、社会に広く認知されることで視覚障害者の社会復帰、ひいては社会の戦力になることを目的としています。大切なのは一人一人が今の視機能を理解し、持っている能力を活かすことです。私達は「isee! "Working Awards"」を通して、一人でも多くの方に視覚障害者が持つ能力＜バリアバリュー＞と可能性を知ってもらい、企業、社会、市民との連携・理解が深まることを願います。

募集概要

■ 内容　【事例部門】／【アイデア部門】
業種・業界など分野の制限はなく、地域も全世界を対象とします。
また、応募は自薦、他薦、個人、企業、団体、グループなど問いません。
【事例部門】は実際に就労していた、もしくは現在就労している事例を対象とします。
（例：周囲の協力を活用した事例、経験を強みとした事例、最新技術を活用した事例など）
【アイデア部門】においてはアイデアだけも結構です。
具体的なアイデアと、そのアイデアを実現するために必要なプランも合わせてご記載ください。

■ 応募期間　郵送の場合は平成29年10月31日（火）必着。
メール、FAXでの応募は平成29年10月31日（火）24時00分（日本時間）受付分まで有効。

■ 応募方法　応募用紙に必要事項をご記入の上、メール、郵送またはFAXで下記までお送りください。
E-mail：info@nextvision.or.jp
郵送先：〒651-0191　神戸ポート郵便局私書箱67号　公益社団法人NEXT VISION　アイシー ワーキング アワード係
FAX：078-306−3303

■ スケジュール　応募開始・・・平成29年6月1日（木）
応募締切・・・平成29年10月31日（火）
表彰式　・・・2018年１月21日（日）

■ 事業化の支援　優秀な就労アイデアについては、応募者自らが事業化に関与する可能性も含め、公益社団法人NEXT VISIONや協力企業、機関・団体とともに事業化・商品化などアイデアを実現するための支援のあり方について応募者と協議します。

isee! “Working Awards” 概要（２）

審査基準と審査員メッセージ

isee! “Working Awards”の審査は、仕事内容や個人の能力を評価したり、順位づけや優劣を決めるものではありません。応募をすべて拝見し、審査員の方々の経験や思いに基づいた独自の視点により、審査員の方々からご意見をいただいたものに、公益社団法人NEXT VISIONよりアワードを贈るものとします。

【審査委員会議長】

三宅 養三（公益社団法人NEXT VISION　代表理事）

多様な分野の方々に審査員になっていただくことで、公平かつ独自性のある審査を行うことができると考えており、本アワードの趣旨にご賛同いただき委員に就任してくださった7名の委員のみなさまに心より感謝いたします。
私が審査に直接関わることはありませんが、多種多様な事例やアイデアの審査に議長として関われることを楽しみにしています。

【審査員】

大胡田 誠（弁護士法人つくし総合法律事務所　東京事務所　弁護士）

チャーリー・チャップリンの映画の中に、「人生に必要なのは、勇気と想像力、それとほんのちょっとのお金だ。」というセリフがあるそうです。これは、視覚障害者の就労を成功させるためにも必須のものではないでしょうか。私は、この賞で、応募してくださった皆さんの「勇気」と「想像力」を称え、そして、それを「ほんのちょっとのお金」に結びつける応援ができたらと思っています。

狩野 りか（神戸市保健福祉局障害福祉部　就労支援担当部長）

神戸市では、「誰もが『しごと』を確保できる仕組みづくり」をめざして、多様な働き方の創出に努めています。目が不自由なことを強みにかえて取組めるような仕事、広い分野で活躍できるような仕事の提案を期待します。そして、いただいた提案が、より多くの企業での雇用につながることを願っています。

津田 諭（社会福祉法人日本ライトハウス　視覚障害リハビリテーションセンター　顧問）

視覚障害があっても、ご自分の能力をフルに生かして組織に貢献している事例を待っています。

初瀬 勇輔（株式会社ユニバーサルスタイル　代表取締役）

前回は多くのアイデアや発想に刺激を受けました。今回も視覚障害者の選択肢が増え、未来につながるような応募に期待し、楽しみにしています。

播野 雅子（シスメックス株式会社　人事部労務政策課　保健師）

どんな方も、それぞれ強みをお持ちだと思います。ダイバーシティ推進の中、新しい価値を生み出す原動力の1つにもなると思いますので、より多くの企業での採用され、定着し、更に次の価値につながることを期待しています。

古川 民夫（神戸市立盲学校　進路指導部長）

日々の業務に埋もれている様々な作業の中から、視覚障害に適した作業を発掘したような事例を待っています。さらに、その作業が、その会社のスムーズな業務運営に欠かせないものであることが望ましいです。

樋口 一茂（神戸公共職業安定所　雇用対策部長）

毎年の「障害者雇用状況報告（毎年６月１日現在）」における雇用障害者をみると、１３年連続（平成２８年６月１日現在）で前年値を上回っています。特に近年では、精神障害者の伸び率が大きくなっており、今後、障害者を雇用する企業は精神障害者・発達障害者の雇用が中心になる可能性があります。
その中で、視覚障害者の場合は、専門的技術的職業（鍼・灸・マッサージ等）への就職が、その多くを占めている状況が続いています。今回のiPS細胞を活用した治療法が進展すれば、視覚障害をお持ちの方はもとより、私どもの障害者支援が大きく変わるものと期待しております。今後ともよろしくお願いいたします。

isee! “Working Awards” 概要（3）

受賞

【事例部門】

受賞者に「就業者＝Player」としての喜びを感じていただくこと、また、今後の就業モチベーション向上を目的として、MVP（Most Value Player）表彰の要素を含ませ、「isee!運動」のi.s.eの3文字を使い「MIP賞」「MSP賞」「MEP賞」「METP賞」の4つの賞を設けました。

MIP賞　Most Inclusive Player賞（周囲の協力を活用した事例）
大橋 正彦様　的場 孝至様

MSP賞　Most Strength Player賞（経験を強みとした事例）
吉川 典雄様　山本 旭彦様　福島 憲太様　阿部 久様

MEP賞　Most Effort Player賞（継続的な努力を重ねた事例）
六川 真紀様　木暮 雅寿様　藤田 善久様

METP賞　Most Edgy Technology Player賞（最新技術を活用した事例）
伊敷 政英様　岸本 将志様

【アイデア部門】

どうすればもっと働けるのか、あるいはどんな働き方ができるか。どのアイデアも非常に多面的でありましたが、一番評価したいポイントで賞を決めました。ここから実現に向かうアイデアがでることを期待しています。

価値転換賞　障害（弱み）を強みとする発想転換のアイデア
矢野 貴美子様　NPO法人ウェルネスハートwithミートアップチーム様

環境整備賞　ロービジョンの方の就業促進に配慮した環境整備・啓蒙活動に関するアイデア
神田 信様　伴 英軌様　井上 直也様

ビジネスプラン賞　実現可能性とビジネス要素を多く含んだアイデア
stera様　鈴木 貴達様

入選

【事例部門】

梅澤 正道様　木村 朱美様　嶋垣 謹哉様　松坂 治男様
川口 育子様　藤原 一秀様

【アイデア部門】

長谷川 晋様　西村 宏美様　川口 育子様　井口 貴子様

Grants4Apps Tokyo に関して

Grants4Apps Tokyo　概要（１）

■ コンテスト　**Grants4Apps Tokyo**

目的

「眼疾患患者さんをサポートする革新的なソリューション」を募集します。

「眼疾患患者さんをサポートする革新的なソリューション」を募集します。
視覚障害のある方は164万人、そのうち145万人がロービジョン（弱視）*1と言われています。視覚障害がもたらす社会的損失は8.8兆円と推定されています。高齢化の進行に伴い、2030年には視覚障害のある方は200万人に達し、視覚障害がもたらす社会的損失は11兆円まで膨らむと試算*2されています。予防や早期発見、治療により視覚障害を減らすことに加え、ロービジョンの方々のよりよい暮らし、就労を支援することは重要な社会的な課題と捉え、バイエル薬品は「第4回Grants4Apps Tokyo」を通して革新的なソリューションを支援することで、社会に貢献したいと考えています。

第4回G4Aは、公益社団法人ネクストビジョンとの共催で、眼疾患の予防から治療、患者さんの就労などに寄与する革新的なデジタル技術を募集します。
事前審査を経て最終選考にノミネートされた全5チームには、2018年1月21日、神戸アイセンターで開催する「isee! innovation connections 」にてソリューションを発表いただきます。その後、最終選考会の結果、上位3チームには助成金（大賞40万円、他2チームに各々30万円）が贈られます。また、ノミネートされた全5チームには、トロフィーの授与と、ソリューションの内容に応じて、ネクストビジョンから開発に対する医療上のアドバイス、神戸アイセンターで実際に患者さんに活用していただく機会の提供に向けた支援を実施します。

募集概要

■ テーマ	眼疾患患者さんをサポートする革新的なデジタルソリューション
■ 応募資格	日本市場を対象としたソリューションを検討しているデジタルヘルス・スタートアップをはじめデジタルヘルスに関心のある方
■ 応募期間	平成29年9月20日（水）～11月15日（水）
■ 応募方法	Grants4Apps Tokyo 公式 HP の応募用フォームに必要事項を入力：https://www.grants4apps.com/tokyo/
■ スケジュール	応募締切・・・平成29年11月15日（水） １次選考・・・12月上旬 最終選考・表彰式・・・2018年１月21日（日）
■ 最終選考会	1月21日に神戸アイセンターで、ノミネート全5チームのプレゼンテーションを踏まえて最終選考会を実施

Grants4Apps Tokyo　概要（２）

募集対象ソリューション

■ 対象ソリューション

眼疾患の予防から治療、社会復帰等をサポートすることを目的とした「モバイルアプリ、ウェアラブブル端末、医療機器、ソフトウェア、ハードウェア」など、日本市場を対象としたテクノロジーやITソリューションのコンセプトまたは開発中のソリューションを対象としています。アイデアを磨きあげ応募してください。

■ 啓発・予防から治療・ケアの各段階での課題と求められるアイデア・技術例

<認知/予防>
・課題（例）：眼疾患への認知度が低い／予防医学の普及が不十分であることによる医療費の増大
・求められるアイデア・技術（例）：疾患啓発・教育／目の健康に寄与する技術／眼疾患予防のための技術

<発症/診断>
・課題（例）：自覚症状に乏しい（初期の緑内障や、糖尿病性網膜症などの網膜疾患）／それに起因する低い受診率
・求められるアイデア・技術（例）：疾患の早期発見／疾患啓発、受診率の向上／内科―眼科連携、眼科―眼科連携のサポート

<病態の解明/治療>
・課題（例）：病態が解明されていない疾患が存在（緑内障など）し、原因治療が不足／
視覚障害原因上位疾患（緑内障、糖尿病性網膜症、網膜色素変性、黄斑変性など）に対する根本治療がない
・求められるアイデア・技術（例）：病態に関わる責任分子や遺伝子の解明に寄与する可能性のあるデジタルを活用したサポート技術

<治療管理>
・課題（例）：標準治療が十分に行われていない／患者さんも参加する形の治療目標の設定（コンコーダンス）の不足
／決められた治療方針の順守（アドヒアランス）の不足
・求められるアイデア・技術（例）：定期的な受診・治療サポート（例：家庭での疾患の進行度のモニタリングなど）
／医師と患者さんのコミュニケーションをサポートする技術

<ロービジョンケア>
・課題（例）：ロービジョンケアへの認知度が低いことによるQOLの低下／生活や移動の困難さ
・求められるアイデア・技術（例）：ロービジョンケアの啓発・浸透／デジタル技術を活用した先進的な視覚補助具（例：歩行補助具など）の開発

審査員

髙橋政代氏（公益社団法人NEXT VISION　理事）

仁木 宏一氏（有限責任監査法人トーマツ パートナー）

高橋俊一（バイエル薬品 オープンイノベーションセンター センター長 理学博士）

Grants4Apps Tokyo　概要（3）

受賞

【最優秀賞】

OTON GLASS　島影 圭佑 氏

【優秀賞】

QDレーザー　菅原 充 氏

慶應義塾大学医学部光生物学研究室　堅田 侑作 氏

【特別賞】

monoca project　遠藤 知慎 氏

シミックヘルスケア　鹿野 晋一 氏

特典

・上位3チームに助成金（最優秀賞40万円、優秀賞2チームに各々30万円）を贈呈
・最終選考にノミネートされた全5チームにトロフィー・賞状を贈呈
・ノミネート全5チームのソリューションの内容に応じて下記を提供
　– ネクストビジョンから、ソリューション開発に対する医療上のアドバイスの提供
　– 神戸アイセンターで実際に患者さんに活用していただく機会の提供に向けた支援

エキシビジョン

エキシビション概要／スケジュール

概要

日時　2018年1月15日（月）～2018年1月21日（日）
9:00～17:00

会場　神戸アイセンター2階 Vision Park（ビジョンパーク）

概要

【パネル展示】　落ちてもケガがないよう、パネルの形は角が丸い形状に統一しました。

● 会場MAPパネル　1枚

● 概要パネル　2枚

ー 「isee! “Working Awards”」概要（1枚）

ー 「Grants4Apps Tokyo」概要（1枚）

● 冒頭パネル　2枚

ー「isee!運動紹介」（1枚）

ー「見え方の不思議」（1枚）

● 受賞者パネル　7枚

ー 事例部門：受賞（3枚）

ー アイデア部門：受賞（2枚）

ー 事例部門：入選（1枚）

ー アイデア部門：入選（1枚）

【体験コーナー展示】

● キッチンエリア：視覚障害者の方も使いやすい工夫がされた生活の便利グッズを展示。

● リーディングエリア：視覚障害者補助器具の展示や点字を打つ体験コーナーなどの設置。

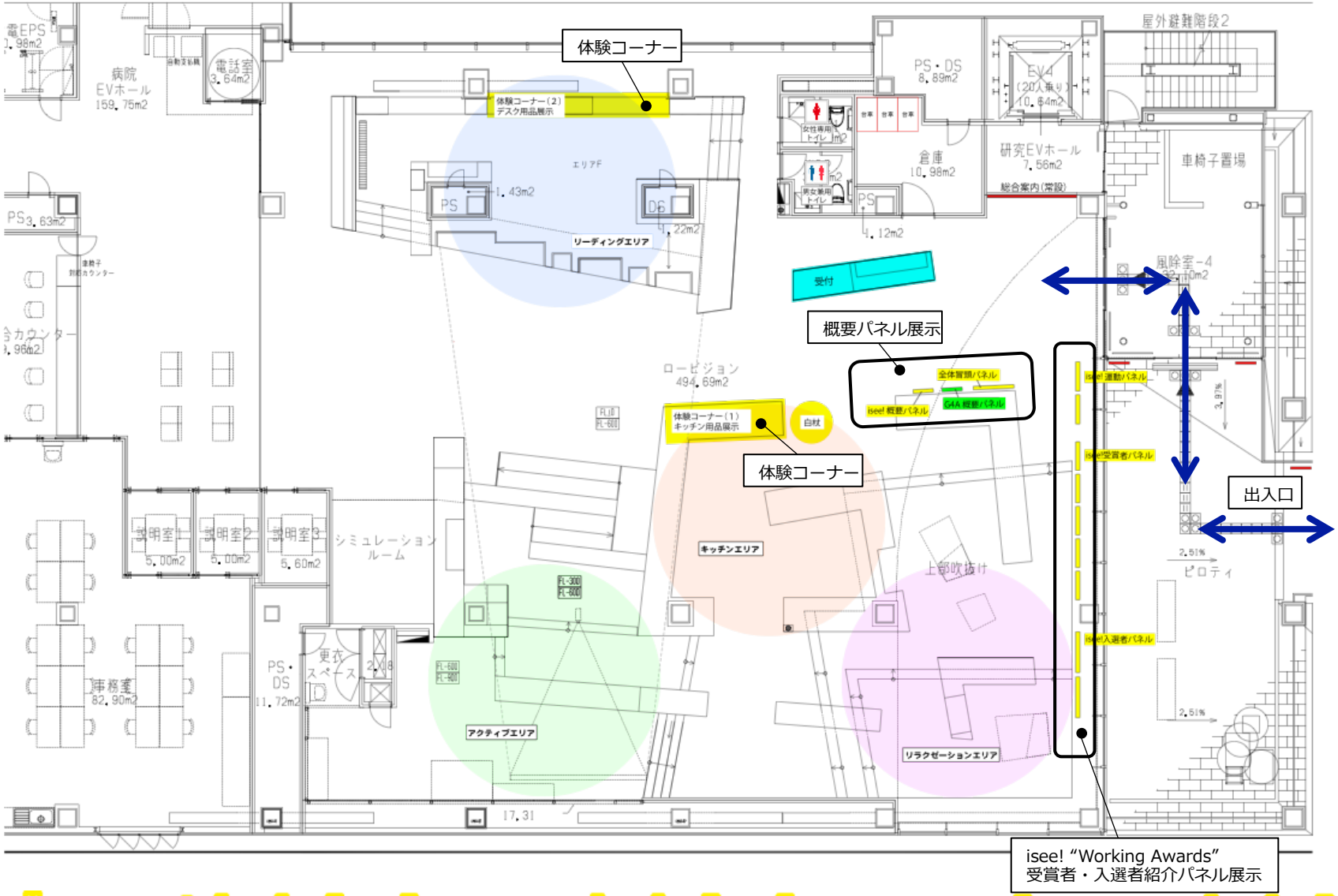
※ 1月21日（日）のイベント開催時のみ、Grants4Apps Tokyo ファイナリスト3組による
デモ機の展示・体験コーナーも設置しました。

内容		フロア
8:00		
	8:30 エキシビション準備	8:30～9:00　準備
9:00	9:00 エキシビション開始	9:00～17:00
10:00		展示 1/15(月)～21(日)
11:00		
12:00		
13:00		
14:00		
15:00		
16:00		
17:00	17:00　展示終了	

会場レイアウト

2Fフロア

※21日(日)のみ一部体験コーナーのレイアウトを変更。（P.44参照）



パネル展示（１）

【会場MAPパネル】　エキシビションの全体像をお伝えするための会場MAPパネルを作成。

isee!運動
視覚障害者のホントを見よう

公益社団法人NEXT VISION × バイエル薬品株式会社

isee! innovation connections

視覚障害の“今”を知ること×新しいデジタルヘルステクノロジーの開発で、
視覚障害者のさらなる社会復帰促進を目指します。

Grants4Apps®
東京 Tokyo

神戸アイセンターの新規オープンを記念して、『isee! innovation connections』を開催します。
視覚障害者の“就労”に焦点をあて、その事例やアイデアが社会に広く認知されることを目的とした『isee! “Working Awards”』と、〈眼疾患患者さんをサポートする革新的なデジタルソリューション〉をテーマにした、デジタルヘルステクノロジー助成プログラム『Grants4Apps Tokyo』。
この2つのアワードの共同開催となる本イベントは、１人でも多くの方に視覚障害者の可能性を知ってもらい、デジタルテクノロジーの力で、視覚障害者のよりよい暮らしと就労を支援することを目的としています。

“isee! innovation connections” エキシビション

紹介パネルや、視覚障害の方にも使いやすい生活用品などのアイテムを展示しています。
実際にアイテムを触ったり、さまざまな体験もできますので、是非お気軽にお立ち寄りください。

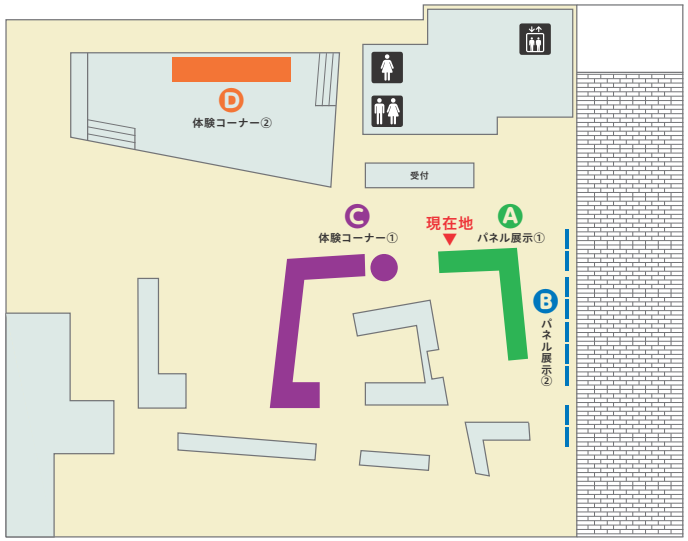
■会期：2018年1月15日（月）～1月21日（日） 9:00～17:00
※1/21（日）のイベント時は、展示場所が異なる場合がございます。

Ⓐパネル展示①
『isee! “Working Awards”』と『Grants4Apps Tokyo』、2つのアワードの概要パネルを展示しています。

Ⓑパネル展示②
『isee! “Working Awards”』受賞者・入選者の事例やアイデアを紹介したパネルを展示しています。

Ⓒ体験コーナー①：キッチンエリア
視覚障害の方にも使いやすいキッチン用品を展示しており、実際に触って体験できます。
また、さまざまな形の白杖を実際に使ってフロアを歩く体験もできます。

Ⓓ体験コーナー②：リーディングエリア
視覚障害の方にも使いやすいデスク用品などを展示しています。
点字を書く道具の体験や、タブレット端末を使った便利なアプリ体験などができます。



“isee! innovation connections”

『isee! “Working Awards”』表彰式、『Grants4Apps Tokyo』最終選考会・表彰式を行います。

■日時：2018年1月21日（日） 12:30～16:30
■会場：神戸アイセンター 2階 Vision Park（ビジョンパーク）内
■受付：事前申込制・入場無料

パネル展示（２）

【概要パネル】

「isee! “Working Awards”」と「”Grants4Apps Tokyo” 」 、２つのアワードの概要をまとめたパネルを作成。
それぞれのアワードを初めて見た人にも伝わる内容を意識して、これまでの開催実績なども記載しました。

isee! “Working Awards”

視覚障害者がいきいきと活躍する姿を知ってもらい、さらなる社会復帰を促進していきます。

日本の視覚障害者は164万人、この数字は今年流行したインフルエンザの患者数（推計患者数164万人）と同じです。164万のうち全盲は18,8万人、145万人がロービジョン（弱視）と言われていますが、そのすべての人が学び、働き、趣味やスポーツを楽しみながら生き生きとした生活を送ることが可能です。

しかし、「就労」だけを取り上げてみると、ハローワークを通じた障害者の就職件数は、77,883件。うち身体障害者全体の就職件数28,307件中、視覚障害者の就職件数は2,364件と障害者全体の約3%にしかならず（平成25年度データ）、残念ながらまだまだ視覚障害者の就労件数が少ないことがわかります。これは、企業の人事担当者を対象とした意識調査で視覚障害者が最も採用のハードルが高いと感じるという回答が多いことからも裏付けられます。

「isee! “Working Awards”」は「就労」に焦点をあて、視覚障害者（見えない、見えにくい人）がどのように働いているのか【事例】、また、どうすれば働けるのか、あるいはどんな働き方ができるか【アイデア】を募集し、【事例】【アイデア】を通じて視覚障害者だけでなく、社会に広く認知されることで視覚障害者の社会復帰、ひいては社会の戦力になることを目的としています。

大切なのは一人一人が今の視機能を理解し、持っている能力を活かすことです。

私達は「isee! "Working Awards"」を通して、一人でも多くの方に視覚障害者が持つ能力（バリアバリュー）と可能性を知ってもらい、企業、社会、市民との連携・理解が深まることを願います。

昨年の開催実績

『シンポジウム isee!視覚障害者のホントを見よう』
日時：2016年12月1日
会場：日本財団ビル（東京都・港区）

公益社団法人NEXTVISION主催／日本財団共催による『シンポジウム isee!視覚障害者のホントを見よう』を実施しました。 NEXTVISION理事による基調講演やパネルディスカッションが行われ、「isee! “Working Awards”」の表彰式も実施いたしました。

第４回 Grants4Apps Tokyo

「Grants4Apps」とは？

革新的なデジタルヘルステクノロジーを支援する、バイエル薬品のオープンイノベーションプログラムです。2013年にドイツ・バイエル社のグローバルプロジェクトとして始動し、日本では2016年より開始しました。バイエル薬品から、「ライフサイエンスに関するテーマ」として毎回異なる課題を順次提示し、革新的なデジタルヘルス・スタートアップから各課題に対するソリューションを募集しました。今回は、「眼疾患患者さんをサポートする革新的なデジタルソリューション」をテーマに、眼疾患の予防から治療、患者さんの就労などに寄与する革新的なデジタル技術を募集し、その中から選ばれた5チームが1月21日(日)の最終選考会へと臨みます。

Grants4Apps®
東京 Tokyo

今回のテーマ 眼疾患患者さんをサポートする革新的なデジタルソリューション

審査・表彰
- 上位3チームに助成金（大賞40万円、他2チームに各々 30万円）を贈呈
- 最終選考にノミネートされた全5チームにトロフィーを贈呈
- ノミネート全5チームのソリューションの内容に応じて下記を提供
  - ネクストビジョンから、ソリューション開発に対する医療上のアドバイスの提供
  - 神戸アイセンターで実際に患者さんに活用していただく機会の提供に向けた支援

審査員
高橋 政代
仁木 宏一
高橋 俊一

最終選考会・表彰式
“isee! innovation connections”
■日時　2018年1月21日(日)　12:30 ～ 16:30
■会場　神戸アイセンター２階　Vision Park（ビジョンパーク）
第１部『第４回 Grants4Apps Tokyo』最終選考会
第２部『isee! “Working Awards” 2018』＆『第４回 Grants4Apps Tokyo』表彰式

これまでの開催実績

第1回　2016年6月27日

審査テーマ
「服薬アドヒアランスを改善する革新的な解決方法」
最優秀賞
「飲み忘れゼロ!プロジェクト」
株式会社
清水健弘氏

第2回　2016年12月2日

審査テーマ
「ペターライフのための革新的なモニタリングソリューション」
最優秀賞
「いつでも、だれでも、チップとアプリでインフルエンザを迅速検出」
ナノフィット株式会社（東京大学医科学研究所 先端医療センター）
坂下雅代氏

第3回　2017年8月30日

審査テーマ
「日本語の医療用語を分析する人工知能やアナリティクス（分析方法）を活用した予測モデル」
最優秀賞
株式会社アイー・エス・エー
藤川和俊氏

パネル展示（３）

【冒頭パネル】

isee! 運動の紹介パネルと、ロービジョンの方を知っていただくための”見え方の不思議”パネルを作成。
21日のイベントでお披露目となったサンキューカードのご紹介も記載しました。

isee! 運動
視覚障害者のホントを見よう

isee! 運動（アイシー運動）とは

**視覚障害者がいきいきと活躍する姿を知ってもらい、
さらなる社会復帰を促進していきます。**

白杖をつきながら、あなたの前を歩いている人がいた。
「盲目なんだな」と同情を覚えたその人が、おもむろに胸ポケットからスマホを取りだしメールを見始めた。
あなたはどう思いますか。
「詐病だ」と軽蔑しますか。罵りますか。小突いたり蹴りを入れちゃいますか。

視覚障害は、じつは様々。
周囲が見えず外出には白杖が必要、だけど目の前のものは見られる、そんな方もたくさんいるんですよ。
彼らを苦しめるのは、世の中の不理解です。
視覚障害者という「レッテル」を貼られたとたん、街中でいじめられたり、職すら奪われたり。
白杖を持って外出するのにおびえ、閉じこもりになってしまう方々も少なくありません。
立派に、フツーに働け、社会の役に立てるのに。

2017年12月、「神戸アイセンター」が開業しました。
「isee!運動」の「i」は「iPS」の「i」でもあります。
iPS細胞の世界初めての臨床応用は網膜で、視覚障害者の方々にとっての福音となりました。
が、眼の問題については再生医療の力だけで解決されるものではありません。
根気よいリハビリ、進化したデバイス、そして何より必要なのが、社会が受け容れる姿勢作りです。

この運動の主目的は、「社会から支えられる」側だった視覚障害者に「社会を支える」側になってもらうこと。
それが彼らに生きがいやりがいを提供することにもなり、日本のメリットにもなります。
運動へのご参加の仕方はいろいろですが、何よりあなたにお願いしたいのは、
彼らのホントの姿を見ていただくことです。

webでも情報発信中!

見えかたの不思議　暮らしの工夫とサポート　社会のなかで働く・学ぶ　人生を楽しむ　その他・サービス

http://isee-movement.org

!?

見えかたの不思議

**目が不自由って、どういうこと?
人間の目のしくみからイメージしてみましょう。**

目が不自由、というのはどういうことなんでしょうか。それを理解するためには、まず人間の目の構造や見え方について知ることが大切です。
見る力というのは、大きく視力と視野の2つに分けられます。 みなさんも「目がいいから遠くまで見える」「目が悪くなったからメガネを買った」なんてことがあるかもしれませんよね。この“目がいい・悪い”という表現は視力をさすことが多いです。
視力の良し悪しを左右するのは、人間の目の中央後方にある黄斑部という神経です。ものを見るとき、この黄斑部が細かい部分を識別していきます。黄斑部の働きが正常ならクッキリと、なにか問題があればボンヤリと見えるわけです。
ですが、人間の目は黄斑部だけで見ているわけではありません。黄斑部の周辺部分でも、見ている（見ようと思っている）ポイントの周りを認識しています。この空間の範囲が視野です。
テレビでたとえればもっと分かりやすいかもしれません。テレビの画質を視力、画面の広さを視野と考えてみてください。視力が下がるとテレビの画質が低下し、視野が欠けると画面の一部が消えてしまう、と言うとイメージできるでしょうか。
目が不自由とは、なんらかの理由で画質が悪くなったり、見える範囲がせまくなったり、もしくはその両方だったりする状態をさします。ですので、まったく見えない人、ぼんやりとしか見えない人、一部しか見えない人など、さまざまな人がいるのです。

「サンキューカード」で、視覚障害者を上手にガイド!

「isee! “Working Awards” 2016」【アイデア部門】環境整備賞を受賞した、神田信さん考案の「サンキューカード」のアイデアが実現。街中で困っている視覚障害者の方に声をかけたり、お手伝いしてくださった方に、感謝の印としてお渡しするアイテムです。

《視覚障害者ガイドのポイント》

●「お手伝いしましょうか？」と気軽に声をかけてください。断る人もいますが、声かけしてほしい人はたくさんいます。

●駅のホームや交差点で危険を感じたら、迷わず呼びかけましょう。「白杖の人、危ない！止まって！」。緊急時には腕をつかんでもかまいません。

●体を押したり、白杖を引っ張るのは厳禁。普段は、視覚障害者に肘や肩を持ってもらい、ガイドは半歩前を歩きます。街の風景を声でガイドすれば安心されます。

パネル展示（４）

【受賞者パネル】

事例部門：受賞

各部門の賞の紹介・受賞者の方の事例やプロフィール、審査員評をまとめたパネルを作成しました。

isee!"Working Awards"

事例部門

受賞者に「就業者＝Player」としての喜びを感じていただくこと、また、今後の就業モチベーション向上を目的としてMVP（Most Value Player）表彰の要素を含ませ、「isee!運動」のi.s.eの3文字を使い「MIP賞」「MSP賞」「MEP賞」「METP賞」を設けました。

●MIP賞
Most Inclusive Player賞
（周囲の協力を活用した事例）

●MSP賞
Most Strength Player賞
（経験を強みとした事例）

●MEP賞
Most Effort Player賞
（継続的な努力を重ねた事例）

●METP賞
Most Edgy Technology Player賞
（最新技術を活用した事例）

【就労事例部門】
MIP賞
Most Inclusive Player

徹底したワークシェアリングで、自分にできることを率先して担当。

視覚障害者第一号として『USEN』に入社しました。会社側の配慮で、パソコン画面の読み上げソフトや拡大表示ソフト、拡大読書器などは揃えてもらえましたが、社内の基幹システムへの対応は完全ではなく、与えられた環境で「できることをする」という状況にあります。「できること」とは、パソコンでのデータベースの閲覧やチェック作業、過去の経験を生かしたエンドユーザーとの電話での交渉などです。徹底したICTの導入によって、グループによるワークシェアリングが構築されているので、例えば、紙のデータ入力・管理などの苦手な仕事は先輩や同僚にお願いし、私に可能な作業や得意な作業を集中させるという働き方ができています。所属するグループは女性が中心。女性が対処しにくい作業や交渉は率先して担当するよう心がけ、シェアバランスを保てるように努めています。そうして築いた同僚や仲間との信頼関係は、どんな補償機器よりも力強いと確信しています。

視覚障害者の作業に制限があるのと同様に、子育て中の女性をはじめ、それぞれに制限を持って働いているのが現実です。政府が取り組む「働き方改革」の延長線上に、障害者雇用の問題解決策があるようにも思います。

審査員コメント
できないことに挑戦を続けるのではなく、できることを同僚や仲間の分まで担うことで、ワークシェアリングをうまく機能させている最の事例は、多くの視覚障害者にも予点があり、施設問題に対する現実的な回答であるなと思います。この考えや姿勢方法、今後も引き続いていかれることを願っています。

大橋 正彦 株式会社USEN／認定NPO法人タートル 会員

学生時代からアルバイトをしていた在宅制作会社に就職。40歳の頃、眼科で緑内障の診断を受けるが、自覚症状もなかったため適応治療をしなかった結果、45歳を過ぎた頃に発症。障害者手帳を取得し、支援施設で職業訓練を受け、2012年に視覚障害者第一号としてUSENに入社。プライベートでは、認定NPO法人「タートル」に参加、自身の経験を活かし、権力的に活動している。

【就労事例部門】
MIP賞
Most Inclusive Player

上司や同僚の理解と協力で、困難な事務所移転を乗り越える。

15年間勤務した事務所が移転することになりました。私は生まれつきの弱視で、15年前には0.02あった視力が徐々に下がり、今はほとんど見えない状況なので、新しい事務所に安全に通勤するための歩行訓練を受けることにしました。ただ、移転までは1か月。歩行訓練は平日のみ。そこで部長に、歩行訓練を勤務時間中に受けたいと相談すると、「しっかりと安全確保を行ってください」と了解を得ることができました。通勤ルート確認の際には、同僚たちが地図で、点字ブロックが敷設され、人込みが少なそうなルートを調べ、現地確認にも同行してくれました。歩行訓練は無事、終了しました。移転の日が近づくと、「慣れるまでは駅で待ち合わせて一緒に行こう」と同僚が声をかけてくれました。とてもうれしかったのですが、丁重に断りました。早く慣れるには、まず自分で実践することが大事だから。移転後の初出勤日は不安でしたが、歩行訓練の成果もあり無事に出勤できました。

移転して1年。上司や同僚からの協力は今もあります。帰宅時に途中まで一緒に歩いてくれたり、道路工事による環境の変化を教えてくれたり。恵まれた職場の人間関係に感謝しています。

審査員コメント
同僚とのすばらしい人間関係があることに感銘を受けました。きっと、この人が直接な指度で仕事に取り組め、できない仕事はどうすればできるようになるか、あるいは無理な部分も少しは適切で手ではからに違いありませんね。また、仕事の一端として歩行訓練を採用し社会参の参加を評価していいです。すべての企業で普通のことになって欲しいと思います。

的場 孝至 会社員

先天性白内障と後発性緑内障を患う。1997年京都産業大学を卒業後、（株）ピープル（現・（株）コナミスポーツクラブ）に入社。営業部の事務職として、拡大読書器、拡大ソフト、音声ソフトなどを用いて、主にエクセルでのデータ処理を行っている。視覚障害者の就労を支援する認定NPO法人タートルの理事も務める。

【就労事例部門】
MSP賞
Most Strength Player

知的財産に関する社内教育と、視覚障害者支援の活動に従事。

『オムロン』の知的財産センタに勤め、知的財産の戦略、制度、教育などを担当しています。社内教育では、新入社員や営業社員に向けて、知的財産の概要から、特許、商標、著作権、不正競争防止法についての要点、秘密保持に関する留意点などを解説する講義を行っています。効果的に行うために、受講生にテキストを読み上げてもらいながらコメント・質疑するかたちで進行するなど工夫しています。視覚障害者である私が講師となることは、新入社員には強い印象で受け止められ、「聴く姿勢」を喚起するとともに、ダイバーシティに対する会社の考え方を体感してもらう機会となっています。

普段の業務に加え、「働く中途視覚障害者」としての体験をもとに、視覚障害者の就業支援活動を社内外で行っています。社内では、職場の合理的配慮の促進を目的に、視覚障害者の情報共有のための懇談会を企画・運営。一般社員の啓発のための「視覚障害者の手引きセミナー」も実施しています。また、視覚障害者の特性を生かした商品やサービスの企画も試行中です。社外では、京都府視覚障害者協会職業部協力員として、「目の見えない人・見えにくい人の仕事サロン」を企画・運営しています。

審査員コメント
デザインや回路設定とのように、知財法に関もして評価するのかといった具体的な仕事の方法に関心が湧きました。視覚障害者が多くても各部の知便度を行きるメンバを社内外に出さて欲しいと思います。専門知識の継承は知財部の役割でず、視覚障害者としての経験を生かして二倍者が育たれていくことは与るもの。企業の使命を不ばらないと思います。

吉川 典雄 会社員

1982年に古石電機（現・オムロン）に入社。技術統括センタ知的財産室室長、センシング機器統括事業部企画室室長を務めるなか、2008年に海外勤務と高度近視のため視覚障害者手帳に。以降、本社機能部門で知的財産の戦略、制度、教育を担当。社内外の障害者就業支援活動にも取り組む。

isee!"Working Awards"

事例部門

【就労事例部門】
MSP賞
Most Strength Player

『ひとみ元気教室』の授業で、健常者と障害者の相互理解を深める。

『わかさ生活』では社会貢献活動の一環として、子どもたち（幼児～小学生）に目の健康を伝える出張授業「ひとみ元気教室」を、2007年より実施しています。「食育」か「視育（目の健康について学ぶ）」のいずれかのテーマで行い、それに加えて、2012年より「健常者と障害者の相互理解を深める授業」も実施し、私はその講師を務めています。その授業では、視覚障害についての理解や、不便さを補うための日常の工夫、手引き体験・食事の配膳位置の伝え方などの実習を行っています。私の見え方を疑似体験してもらうことで、決まった支援のかたちではなく、障害者の要望に耳を傾ける大切さを実感してもらっています。体験した子どもからは、「日常生活のなかで自然と声かけや手引きができるようになった」という声が聞かれます。授業の最後には、「視覚障害者だけでなく、困っている人を見かけたら『何かお手伝いしましょうか？』と声がかけられる優しい心を持ってください」とメッセージしています。このような活動を、ヘルスキーパー（企業等に雇用され従業員等を対象に施術等を行う）として従事する傍ら、継続的に実施。17年より大人（企業）向けにも開催しています。

審査員コメント
障害の特性を活かし、授業に視覚障害と障害者のふれ合いを取り入れていることに意義を感じました。フランクに声をかけるという姿勢が子ども心に受けけば、社会はもっとよくなるはず。また、ヘルスキーパーだけでなく、様々の活動への機関的な参加が、社内での ポジションの確立につながっているのでしょう。社内での評価にもつながればよいと思います。

山本 旭彦 株式会社わかさ生活

網膜色素変性症により視力が低下し、2011年にヘルスキーパーとしてわかさ生活に入社。業務の傍ら、12年より出張授業「ひとみ元気教室」で、子どもたちに視覚障害者の相互理解を深める授業の講師として活動をスタート。17年からは企業向けの授業も開催している。

【就労事例部門】
MSP賞
Most Strength Player

培った経験や技能を生かして、本物の文化を残す編集者に。

先天白内障などによる眼疾患で弱視、就職するまでしばらくフリーライターをしていました。2017年、自費出版する書籍について相談していた『井上版企画』（群馬県利根郡みなかみ町）の代表の目に留まり、入社。私は事務に加え、広報や既刊書籍の電子書籍化を担当しています。これまで一般企業に勤めていた経験や個人としてホームページを作成した経験があり、そのノウハウを仕事に生かせるのが私の強みです。

労働時間は、週30時間。フルタイムで働いて体調を崩すより、月給は高くなくてもしっかりと休養できる雇用条件の方が長く働き続けられてよいかなと思っています（生活に余裕ができたら、あらたに小説を書き始めたいとも思っています）。

『井上出版企画』の創業理念は、「本物の文化を残す」こと。そのためにも視覚障害者の文芸作品や、障害者福祉・障害児教育に長年携われてきた方によるノンフィクションの刊行をお手伝いできればと考えています。よい原稿が書けても、障害に引け目を感じて出版社に持ち込めないという視覚障害者方もおられるのではないでしょうか。そんな方のお力添えになりたいです。

審査員コメント
視覚障害は移動が難しいため、地方での就労は都会に比べると難しいと思われていますが、出版業界とフリーライターという都会的な仕事を地方で行っていることに感銘を受けました。多種な職作方が求められているなか、これこそがコニバーサルな社会の働き方だと、思い相来。視覚障害の有名作家が生まれることに期待しています。

福島 憲太 株式会社井上出版企画

佛教大学卒業後、一般企業に10年間ほど勤め、フリーライターに。読売新聞、産経新聞などの新聞や雑誌に寄稿記事が掲載される。「和歌やめくる第一歩」である「子ども」、「友だち」誌へ、年末と出版企画から自費出版する予定。そのほか合わせ中、本への愛と情熱が代表の目に留まり、入社した。

【就労事例部門】
MSP賞
Most Strength Player

見えないなりの進み方がある。失明と震災を乗り越えながら、鮮魚卸会社を経営。

青森市で魚の卸売業を営んでいましたが、約20年前に網膜色素変性症を患い、失明しました。そんな中でも諦めず、念願であるふるさとの石巻市に支店を設けることができました。魚体の張り、ぬめりなどチェックを集中させて魚に触れることで鮮度を選別しながら会社を経営。

しかし、東日本大震災の津波で石巻の自宅と工場を失い、仮設住宅に入居。会社の売上も半減。失意のどん底に陥ったが、2年後、北海道釧路市のイワシを目にして、再びイワシへの情熱が湧き上がりました。2014年には釧路市に隣接する白糠町にも支店を開設。約15名の従業員を雇い、順調な経営を続けています。漁師とも積極的にコミュニケーションを取り、イワシの鮮魚としての価値を高められるように漁業協会との橋渡し役を務めています。また、許可を得て船に乗り、イワシの鮮度の保ち方や漁法を指導するなど漁師との信頼関係も築いています。

見えないなりの進み方があり、ぶつかってみないとわからないこともたくさんあります。本気で学べば、誰でもできるはずで。これからも復興をスローガンに、イワシのニーズを高めていけるよう精力的に活動します。

審査員コメント
魚の鮮度は眼のみや聞を見て判別しますが、それを手の感触だけで見極め、さらにはその部分で即会社を経営され、被災後も不屈の精神で会社を発展されていることとして敬意されます。網羅フッサージは触覚の優れた視覚障害者にました施策と思わせます。よりさまざま業種に視覚障害者が現れり、活躍できるのではと大きな可能性を感じさせられます。

阿部 久 鮮魚卸会社経営

青森市でイワシなどの鮮魚卸売業を経営していたが、46歳頃に網膜色素変性と判明し失明。東日本大震災で被災し、石巻の自宅と工場を失うも、北海道釧路地区の仕事先に支店を設立。現在、青森の本店を拠点に約30名の従業員とともに、鮮魚卸の販売業とイワシ漁生活者の活動を続けている。

【就労事例部門】
MEP賞
Most Effort Player

多くの方のサポートで復職～公私ともに充実した毎日を。

2009年に視覚障害者として保険会社に入社しましたが、時が経つにつれ、パソコンの文字や書類が読みにくいなど、視力・視野の低下が進んでいました。継続就労が可能か不安になっていた頃、脳内出血で入院。5か月半、休職しました。目に関して産業医に相談したところ、ロービジョンに詳しいかかりつけの眼科医に私の状況を伝えてくださり、眼科医からは、音声読み上げソフトを使ってパソコンを操作するための訓練施設や支援団体を紹介していただきました。他方、会社人事担当者が訓練施設へ赴き、会社のパソコンにJAWS（音声読み上げソフト）を導入しました。

復職後、就業しながら訓練施設での訓練や、ジョブコーチ（職場適応援助者）による訓練も受け、会社独自のシステムにも対応できるようになりました。ただ、職がりでの作業や書類の素早い読み込み、迅速な行動など苦手な作業はリーダーや同僚と共有し、サポートを依頼しています。また、障害者採用された社員を募り、会社組合とのヒアリングの場を設け、待遇や体調面での悩みについて話し合っています。社外では、支援団体のサロンや講演会で多くの方と交流し、公私ともに充実した毎日を過ごしています。

審査員コメント
産業医から眼科医へ情報提供が行われ、当事者団体と訓練施設につながり、在職者訓練とジョブコーチを利用して職務に適応できるという、中途視覚障害者の職場復帰のモデルケースと言えます。一人で思い悩むのではなく、発言し、行動することで情報者を学びとる中の行動ないい変化を期待の公ムだと思います。

六川 真紀 会社員／認定NPO法人タートル 会員／JRPS東京 会員

2009年に11年間勤めた銀行を退職。翌年、保険会社へ入社。営業企画部マーケティング室で経理、総務、教育を担当。周囲の協力で翌年末で勤務上げる目標を掲げた強い意志と行動で、視覚障害者が働きやすい環境を整備。労働大学校や社外人材交流会で情報に関する講演を行った。

パネル展示（５）

事例部門：受賞

isee!"Working Awards"

事例部門

【就労事例部門】
MEP賞
Most Effort Player

自ら提案し、実行する、見えない自分だからこそできる業務！

社内での業務の一つは、朝礼のメール配信です。朝礼に参加できなかった社員に、朝礼の内容を配信しています。二つ目は、新入社員や中途入社者を対象にした電話に対する考え方研修。全盲の視覚障害者にとって「声だけのコミュニケーション」は日常のこと。上手なコミュニケーションのポイントを共有します。三つ目は、コールセンターの対応品質管理。言葉遣いや相づちなどが適切に行われているかをモニタリングします。四つ目は、社員面談の実施。五つ目は、CSR担当者として行う地域社会貢献活動。小学校の訪問授業では、子どもたちの質問に答えながら、弱視、全盲、色弱、視野狭窄、先天性、中途など、視覚障害者にもさまざまな見え方、見えにくさがあり、白杖を持っているから「見えない人」ではないことを理解してもらっています。回を重ねることに、通勤途中に子どもたちから声をかけられたり、地域や小学校のイベントに呼んでいただいたり、地域に育まれていることを実感しています。

これらの業務は、自ら提案し、採択され、運用しているものばかりです。「見えない自分だからこそできること」という発想で企画しています。

審査員コメント

電話という「見えない相手との コミュニケーション」に視覚障害者の特性を生かしていることや、地域の小学校の福祉教育に貢献されていることが評価できます。また它気づかれたかった具体的な視覚障害者就労の実例が興味で、さらに「パリアバリュー」の実践賞です。今後の活動にも期待しています。

木暮 雅寿 株式会社アクトコール

視覚例からの会保証で2010年に全盲となり、聴覚障害にも発生。14年、障害者雇用第一号としてアクトコールに入社。視覚は視野を行いつつ、平日はほぼフルタイム勤務。CSR担当として地域小学校の福祉教育にも携わっている。

【就労事例部門】
MEP賞
Most Effort Player

不可能と思われた就労継続を可能にしたものとは？

熊谷組で現場監督として従事していた30歳のとき、工事現場での不慮の事故により、頭蓋骨骨折、脳挫傷、両眼眼球破裂を負い、一瞬にして視覚障害者となる。入院中、生き続けることなどへの恐怖感で毎晩涙を流していたが、眼科医の高橋広先生から、様々な方との面談の席や、自立・職業訓練校などの情報提供により、閉ざされた闇の中に輝く光が見えたことを覚えています。復職に向けて心の舵を切った後、福岡視力障害センターと日本ライトハウスで、それぞれ1年間の訓練を受講。訓練成果を復職後の業務に繋げるべく、訓練の成果を人事担当者に毎月報告。社内のネット環境が切り替わったことを知り、本社・支店への支援要請後、関西支店でネット環境の訓練を実施。事故から3年後、念願の復職を果たす。一方、タートルで九州地区の理事を受け持ち、視覚障害者の就労支援に努める。一人では乗り越えられない壁でも、周りの方に協力依頼をすることで、乗り越えられる壁は必ずある。妙なプライドを捨て、習得すべきものに踏み出す勇気と、絶対に負けたくないという闘争心を持てば、蓄積された経験値がゆとりに転換される。自分から行動し、可能性を高めてください！

審査員コメント

失明した方が自己復職を果たすというのは驚異的です。眼科医、支援団体、訓練施設、労働機関、事業主からの支援と併せ、必要とする各期に必要とする力の協働が凄ったかなこそ、短期間での復職を遂げられたのでしょう。全盲者が視覚業務に従事できたから、視覚障害にある前の業務に一生懸命取り組んでこられたから可能になったことだと思います。

藤田 善久 株式会社熊谷組／認定NPO法人タートル 九州地区理事

高校卒業後、建設会社に入社し、現場監督として従事する5年後に倒産。翌年、熊谷組に入社し、現場監督に。2004年に工事現場で事故に遭い、視覚障害者となる。1年間の入院後、2つの施設で本格の訓練を受講。07年に復職を果たす。現在は、建設機材・資材を調達する購買業務に従事している。

【就労事例部門】
METP賞
Most Edgy Technology Player

当事者性と専門性を生かした業務で、「視覚障害は情報障害」と言わせない！

インターネットは、視覚障害者の自立や社会参加に欠かせません。ところが、ウェブサイトへアクセスすると、写真や動画の内容がわからない、クリックするとどこへ行くのかわからないなど多くのバリアが存在します。そこで、視覚障害者にも健常者にも使いやすいサイトをつくるために、ITコンサルティング会社でウェブアクセシビリティのコンサルタントとして業務を開始しました。ところが、30歳頃から目の具合が悪くなり、角膜移植を4回受けましたが、拒絶反応のために視力は移植前の0.01に。会社も休みがちになり、退職しました。それでも思い直し、個人事業としてアクセシビリティの仕事を開始。大手金融機関、電機メーカー、障害者団体などのウェブサイトの改善や、最近は神戸市のアクセシビリティ研修講師も担当しています。

AIやIoTなど、今、IT環境はめまぐるしく進歩しています。ただ、障害当事者が知見を持ったうえで発言し、アクセシビリティを確保しなければ、せっかくの夢の技術が台無しになります。視覚障害者の自立や社会参加を進めるために不可欠な情報の取得と発信。それを支えるアクセシビリティの確保と向上を目指し、今後も仕事を続けていきます。

審査員コメント

障害当事者としての経験とウェブの専門知識を組み合わせて起業するという姿勢は、起業家を目指す視覚障害者に大きなヒントを提供しています。また、視覚障害者が最適解ソフトウェアアクセシビリティ、評価を行うことは大切です。それを他人で行い、日本工業規格の改善づくりに貢献者として参画するのも所を見ないと思い、さらなる活躍を応援します。

伊敷 政英 Cocktailz アクセシビリティコンサルタント

ITコンサルティング会社に入社後、30歳頃から目の状態が悪化。2010年8月よりCocktailzとして個人での業務を開始し、長期企業やお協奏のウェブサイトにおけるアクセシビリティ改善業務を行い、ウェブアクセシビリティセミナーや職員研修での講師も務める。2014年に社日本工業規格「高齢者・障害者等配慮設計指針」の原案作成に携わる。

【就労事例部門】
METP賞
Most Edgy Technology Player

障害を強みに変えて独立開業。ICTの力で生活と就労を支援します。

生まれつき両手の機能障害と弱視があります。障害者の役に立てる仕事に就きたいと思い、関西学院大学の社会福祉学科に進学。身体障害者入所施設でパソコン活用を補助するボランティアも行いました。医療機器メーカーにシステムエンジニアとして就職しましたが、障害が悪化し、独立開業を決意しました。2014年に障害者向けの訪問パソコン講座の事業を開始。パソコンの設定を変更したり、スマートフォンなどのタッチ操作を補助する自助具を紹介したりと幅広い対応が必要ななか、視覚障害者用ICT機器に関する知識や、複数の障害を持つ自身の経験が役立っています。個人宅に訪問する際はスマートフォンのGPSセンサや地図アプリなどを駆使することで、弱視者には難しいとされていた顧客訪問や営業活動を実現しています。

現在は障害者の入所施設などでもサポートを提供しつつ、兵庫県視覚障害者福祉協会で、県下の視覚障害者から寄せられるICT機器に関する相談や修理を担当。ICTシステムの導入支援や、視覚障害者のための情報提供アプリの開発にも携わっています。今後は、視覚障害者がICTの知識や技術を活用して就労の幅を広げるための講習会を開催したいと考えています。

審査員コメント

近年、医学的では視覚障害と他の障害を併せた重複障害の生徒が増えて おり、ほとんどが福祉事業所に通っているのが実情です。障害よりは病気、上回ったに重度障害でも生活を助ける。高い志を持ち、自身の特性を認識し、必要なスキルを磨きながら挑戦されています。挑戦を希望する重複障害の人たちに大きな勇気を与えてくれるでしょう。

岸本 将志 自営業（調剤薬）福祉情報コーディネーター

先天性の両上肢機能障害と弱視を持って出生。2002年関西学院大学社会学部に入学。身体障害者入所施設でパソコン教室のボランティア を行う。09年大阪電気通信大学大学院芸術工学研究科修了。長瀬産業メーカーに入社。11年に独立開業し、16年に兵庫県視覚障害者福祉協会のICTサポートを担当。

パネル展示（6）

アイデア部門：受賞

アイデア部門

どうすればもっと働けるのか、あるいはどんな働き方ができるか。どのアイデアも非常に多面的でありましたが、一番評価したいポイントで賞を決めました。ここから実現に向かうアイデアがでることを期待しています。

●価値転換賞
障害（弱み）を強みとする
発想転換のアイデア

●環境整備賞
ロービジョンの方の就業促進に配慮した
環境整備・啓蒙活動に関するアイデア

●ビジネスプラン賞
実現可能性とビジネス要素を
多く含んだアイデア

【アイデア部門】価値転換賞

美術作品のさわり方を解説する、アートトランスレーターという仕事。

私が副館長を務める、六甲山の上美術館「さわるみゅーじあむ」では、すべての作品を「さわって」鑑賞していただいています。その際に、作品に関して説明できる担当者がいれば、来館者はより楽しく、深く、作品を体感することができます。そこで、当館では、芸術作品の「翻訳」を手伝うアートトランスレーターを、健常者と視覚障害者の区別なく育成したいと考えています。むしろ、さわるということに関しては視覚障害者の方が長けているかもしれません。健常者は、「見えているから、さわらなくてもわかる」と勘違いしている人が多いように思いますが、作品の表面の質感、研摩の跡、重量感など、さわらなければわからないことはたくさんあるのです。

アートトランスレーターになるための検定試験を実施し、初級、中級、上級と3段階のレベルを設定。検定試験を受ける前には、美術館で研修も行います。職員となった方は、当館の仕事とアートトランスレーターの仕事を兼務していただきます。アートトランスレーターの主な仕事は、各地の美術館や博物館、公共施設などで行うアートシェアリングや展示会での活動です。スキルに応じて給与もアップしていくようにと考えています。

審査員コメント
興味深いアイデアです。受付者になりがちな視覚障害者が、芸術に関する情報の発信側に立つことで、視覚障害者の文化の向上が図られるとともに、芸術の解釈にも新たな深みを与えられるのではないでしょうか。将来性で、その機能だけで事業収益を確保するのはスリルもあり、とても新鮮な感覚を覚えるもの。高体化を期待しています。

矢野 貴美子 六甲山の上美術館副館長
高校卒業後、ドイツ宝石研究所で宝石学ディプロマを取得。1992年ドイツのイーダ・オーバシュタイン市博物館開館60年祭を支援。2013年兵庫県神戸市の六甲山にあった元・保養所を改装し、六甲山の上美術館「さわるみゅーじあむ」として オープン。副館長を務める。

【アイデア部門】価値転換賞

ブレッドセラピーを兼ねた、視覚障害者のためのパン教室を開講

視覚障害者には仕事ができないという、社会の思い込みがあります。そのような誤解を払拭するため、弱みを強みに替え視覚障害者のことをもっと知ってもらえる「ブレッドセラピーを兼ねたパン教室」を提案します。製パンには、パン生地をこねる（触覚）、発酵を確認する（嗅覚）、味を確認する（味覚）など、視覚障害者の特性を発揮できる作業が多く含まれています。パン教室は、受講者が習得した製パン技術を活かして就労支援も行え、職業訓練になります。また、パン生地独特の柔らかさや香りには、心を癒す力があります。海外では、製パンにある視覚障害者のブラッドセラピー療法も行われていて、中途視覚障害者の自尊心を取り戻すきっかけになっています。教室に晴眼者も参加すれば、セラピー効果とともに相互理解を深めることができます。さらに、パンを販売するカフェを併設することで、受講生をパン職人として雇用することもできます。製パンに地域の食材を活用すれば、地域とのつながりも築けるでしょう。カフェは、情報弱者となりがちな視覚障害者が、就労や日常生活のための情報を交換、共有できる場としても活用します。

審査員コメント
地域の食材を使い、オリジナルのパンを焼き、企業化。まるごは、ブレッドカフェを開くという仕大な計画です。ただ、障害の種別に関らなく、障害者の就労について、パンやクッキー製造、カフェなどのアイデアは よく 対応することは 決 うます。そういった 志行事例のノウハウを 取り入れれば、より実現に近づけられると思います。

NPO法人ウエルネスハート with ミートアップチーム
「より良く生きる」という思いを込めた、NPO法人ウエルネスハートの活動の一つである「ミートアップ」は、【視覚障害者の働き方にイノベーションを開そう】をテーマに掲 げ 集まり、「ブレッドセラピーを兼ねたパン教室」をミートアップから生まれた。

【アイデア部門】環境整備賞

3月29日を「ロービジョンの日」に！視力障害者の環境向上を呼びかけよう。

1年にはさまざまな「記念日」があり、ユニークな記念日はニュースに取り上げられ、話題になります。そこで、私も記念日を提案します。「ロービジョンの日」です。「見にくい」をもじって、3月29日。ロービジョンとは何かを周知し、ロービジョンを取り巻く環境が向上するように、メディアに話題を提供できるきっかけを作ります。

JRPS（日本網膜色素変性症協会）が9月23日を「網膜の日」と制定し、日本記念日協会に認定されました。9月23日は秋分の日で、昼と夜の長さがほぼ同じ。網膜に疾患があると昼間は普通に見えても、夜は見えなくなり、不自由を感じる方がおられることを知ってもらうのが主な目的です。制定記者発表の様子は、ラジオ番組で取り上げられ、話題になりました。「ロービジョンの日」とする3月29日は、新学期や年度替わりを目前にした時期です。新しい環境に身を置くことを機に、「視覚障害をカミングアウトしよう」「白杖をついて歩くようにしよう」と、それぞれの思いを実践するチャンスにもなるはずです。その思いを周りの人や社会が受け止めたり、視覚障害者を取り巻く環境向上のきっかけに活用されるようになればうれしいです。

審査員コメント
記念日が「ないならつくればいい」という発想がユニーク。「目の愛護デー」はそのものとおり、目を大切にしようという意味合いが強いけれども、それと比べ見なる「見え方、見えにくさ」に重点をおく記念日があれば、ロービジョンの理解が進むかもしれません。

神田 信 会社員／認定NPO法人タートル 理事／JRPS神奈川 幹事
約30年前より網膜色素変性症を患う。メガネの三城で店舗開発部門に長年従事。視覚障害者になったことで、視覚障害者のために役立つ仕事をしていきたいと考えている。認定NPOタートル、JRPS神奈川でも活動し、2016年より日本盲人会連合の認定に関する委員会にも参加。

アイデア部門

【アイデア部門】環境整備賞

弱点を補い合って就活し、働く、障害者の「チーム就労」の導入を！

障害者は日常生活さえ困難なのに、就職活動を一人で行っていることに疑問を感じていました。入社後も、企業によっては合理的配慮や支援が不十分だったり、仕事が限定されるなど、さまざまな課題があります。どうすれば企業が視覚障害者を受け入れやすくなるのか、視覚障害者が働きやすくなるのかと考えた結果、障害者同士、あるいは、健常者とチームを組んで就労する「チーム就労」というアイデアに至りました。

まず、家が近く、互いの弱点を補い合えるような2人がチームをつくります。例えば、視覚障害者が聴力と話力を提供し、聴力障害者が視力を提供すれば、2人で補い合えます。相性が合えば、アイセンターや就労支援施設でチームワークを練習し、その後、チームで仕事を選び、面接に出かけ、就職後もチームで同じ仕事に従事します。チームを組むことで職種の選択肢が広がり、互いにできない仕事は相棒に任せ、2人で助け合いながら仕事に取り組めます。能力の幅も広がり、長く勤められる可能性も高まるはずで。企業側には、2人同時に雇うことで配慮の負担が減るだけでなく、周囲の社員は障害者への接し方を、相棒の言動を見ながら学習できるというメリットもあります。

審査員コメント
視覚障害者がほかの障害者とペアを組んで就職活動するのは一つの方法です。、障害者が相互に弱点を補うことで就労の可能性が広がるのも健常者アイデアだと思います。ただ、デメリットも あります。例えば 入社後、一人が休みを取ると、もう一人も勤務できなくなるのは大きな制限。企業側の視点を加えて検証すれば、さらにいいアイデアになりそうです。

伴 英軌 会社員
名古屋大学理学部卒業。広島大学大学院理学研究科博士課程後期中退後、約4年ほど私立女子高校にて非常勤講師を勤める。金属加工会社の設計部・生産技術部を経て、現在は高等技術専門校生。

【アイデア部門】環境整備賞

既存の製品シグナルエイドを用いた、SOSサインの発信・受信システム。

街なかで困っても、支援を求める声を出すのが苦手な視覚障害者は多いはず。歩いている方々も、「どう声をかけていいかわからない」と支援できずにおられます。そこで、困ったときに小型携帯端末のボタンを押せば、その電波を受信して光る信号機や音声装置を、駅やバス停、歩道、店舗や施設などに設置。装置が光や音でSOSサインを発すると、サインを受け取った方々が困っている視覚障害者に気づき、声をかけるというシステムを提案します。使用するのは、エクシオテックの「シグナルエイド」という製品で、日常生活用具給付対象品に指定されています。既存の製品を活用することで、一から開発しなくていいというメリットがあります。

通勤時の困難も解消できます。視覚障害者が企業に採用されにくい理由に、労災事故の懸念もあると聞いたことがあります。最近は、時差通勤や自宅勤務などの配慮もありますが、多くは健常者と同じ通勤が求められています。困ったときに「困った」と言える環境を整えることも、事故を未然に防ぐ方法の一つ。なお、アイデアの実現には、エクシオテック、総務省、国土交通省、鉄道・バス事業者、企業や行政などの協力が必要だと考えています。

審査員コメント
盲学校には、鍼灸マッサージの技術は高くても、歩行能力が不十分で通勤に自信がないために就職先の選択肢が制限されるという状況があります。信号既設なども設置して、視覚障害者が職業人 々 を 支援するために、安全に通勤できることが前提。その意味で、視覚障害者の就労の可能性を広げるための基礎となるアイデアだと思います。

井上 直也 MDSサポート代表／認定NPO法人タートル／NPO法人片目を明者支援の会／パソコンボランティア登録
高校卒業後、企業で8年間営業職を務め、4年間飲食店で勤務。2014年に両親とも網膜剥離の診断を受け、在籍は先明していたことがわかる。現在は両親ともに全盲。2016年に視覚障害者向けのiOSのプライベートレッスンを開始し、同年MDSリポートを開業。現在は、iOSを用いたデジタルロービジョンケアを行っている。

【アイデア部門】ビジネスプラン賞

携帯ショップの待ち時間を利用した、無料マッサージのサービスを。

先日、携帯ショップを訪れた際、たくさんのお客さんで混雑していました。私も番号札を取って順番を待っていたとき、「お待ちいただくあいだに、無料のハンドマッサージはいかがですか？」という案内を受けました。そのときはお断りしましたが、肩のマッサージだったらお願いしてもいいなと後で思いました。ちょっと肩が凝っていたので。

そこで一つ、アイデアを思いつきました。携帯ショップに限らずいろいろなお店での待ち時間に、無料のマッサージを受けることができれば、お客さんは退屈しないし、混雑時の気分を和らげながら体もリフレッシュできるのでは、という提案です。

マッサージ師は携帯ショップと雇用契約を結ぶことができれば、一定の所得になりますし、顧客は無料で気軽に利用でき、得した気分にもなるでしょう。もちろん、本格的な治療を目的としたものではなく、数分間、肩回りをマッサージするだけでいいと思います。携帯ショップ以外にも、美容室や薬局など街のさまざまな店舗にサービスとして導入され、マッサージ師の雇用の機会が広がることを期待しています。

審査員コメント
斬新らしいアイデアです。混雑、顧客、マッサージ師の3者の利益になり、しかも、今日からでもできるシンプルな取り組み。無料なのでニーズも高い気がします。このような日常のちょっとした気づきが、障害者雇用の大きな効果に結びつくもの。このサービスを有用だと認え、マッサージ師を雇用する事業者がみるのこうちが課題ではありますが。

stera

【アイデア部門】ビジネスプラン賞

視覚障害者の物件探しにotomoする、仲介手数料0円の「おとも不動産」。

視覚障害者の引っ越しには多くの課題があります。まずは、物件探し。間取り図をイメージするには、詳しい説明が必要です。見学も、壁等に触れて確認するので時間がかかります。視覚障害者と関わる機会が少ない不動産会社では、対応がスムーズにいかず、契約に繋がらないケースも多いようです。視覚障害者も途中であきらめたり、納得できないまま契約することもあるようです。

最近は視覚障害者の雇用も進んでいますが、ヘルスキーパーなどのお仕事は都心に集中していて、引っ越しを伴う転職も少なくありません。そして、引っ越しが決まると、駅までの道のりや利用しやすいスーパーなどを探し、「メンタルマップ（頭のなかに描く地図）」をつくることが必要になります。

そこで、同行援護専門の事業所「otomo」の新サービスとして、視覚障害者の物件探しにotomo（お供）する「おとも不動産」を提案します。一緒に物件を探し、契約書の代筆や代読も担当。入居後のメンタルマップづくりも可能です。さらに仲介手数料も無料です。平成30年2月のサービス開始予定です。

審査員コメント
誰も思いつかなかったアイデア。多くの視覚障害者が待っていたサービスで、視覚障害者が暮らしやすい社会につながる意義のある取り組みだと思います。協力してくれる不動産屋が あることも前提になりますが、すでに健康を脅かされているようで不安で、ぜひ実現。歩行訓練の必要な場合は、訪問援護を活用する機会と の連携 で 近づくられば、

鈴木 貴達 otomo／リンクス株式会社 代表取締役
1983年東京都生まれ。母親が視覚障害者であることがきっかけで、2017年に同行援護専門の事業所「otomo」を開設。同行援護のみならず、外出先をつなぐイベントの企画・運営、ガイドヘルパーの育成など、今までにない新しい価値をつくるために挑戦しています。

パネル展示（７）

事例部門：入選

isee!"Working Awards"

事例部門　入選

職場の協力で高まった勤労意欲。あきらめかけた事務の仕事を定年まで。

網膜色素変性症により見えなくなっていくなか、就労継続について眼科医に相談。ロービジョンケアに熱心な眼科医から紹介された、認定NPO法人タートルの先人たちの助言でITのスキルを身につけ、資格を取得し、諦めかけていた事務職の仕事を65歳の定年まで続けることができました。その要因は、気兼ねなく相談できる職場の協力体制があったこと。紙の文書は見えにくいため、専任のアシスタントや同僚が必要に応じてメールで返答してくれたり、パソコンがフリーズしたときは情報システム部門が解決してくれました。また、スクリーンリーダーが動作する電子文書管理ソフトと複合機を活用した文書情報の電子化を、社内で提案しました。文書情報の共有化が図られ、迅速に検索、閲覧できるようになったと高い評価を受け、達成感が得られました。そんな協力体制があったからこそ勤労意欲が高まり、仕事を続けられたと思っています。

梅澤 正道 認定NPO法人タートル 会員

網膜色素変性症患者の私は、49歳のときから徐々に見えなくなり、社会福祉法人日本盲人職能開発センターでパソコンなどの視覚障害補償機器技術を習得し、復職。２年後の５２歳のとき、特殊法人が解散。2006年より再就職先の公益財団法人に勤務。2016年に65歳で定年退職。

就労に欠かせないITの職業訓練校や、その指導者を増やすための取り組みを。

網膜色素変性症との診断後、2005年に全盲に。朝5時から夜12時過ぎまで主婦業と子育てに奮闘しながら、大阪府ITステーションのパソコン教室に通い、音声パソコンの使い方を2年間学びながら、音声起稿師養成講座を受講。さらに、日本ライトハウスでパソコンの訓練を受けて就労を目指すも、父親の介護のために就労を断念。介護を手伝いながら、取得した音声起稿師の資格を生かし、在宅テレワーカーとして大阪府や視覚障害者団体などからのテープ起こし業務を受注。視覚障害者を対象にしたパソコン操作のサポートも行っています。

私自身の経験から実感するのは、視覚障害者に対する職業訓練校が少ない現状。健常者と一緒に就労するために不可欠なITに関する基礎講習や職業訓練が受けられる場と、その指導者をもっと増やしてほしいと願います。

木村 朱美 音声起稿師・パソコン講師

第2子を出産後、網膜色素変性症と診断され全盲に。大阪府ITステーションで音声パソコンを学習、音声起稿師養成講座を受講し、資格を取得。在宅テレワーカーとしてテープ起こしの仕事を受注。視覚障害者へのパソコンサポートも行っている。日本情報処理検定協会パソコンスピード認定試験2級取得。大阪府障がい者ITサポーター。起稿事務所 「ドリームス」 代表。

視覚障害を患いながらも継続就労。新たな職場で、経験を生かした挑戦を。

営業職を務めていましたが、入社後17年目に患った網膜色素変性症が進行し、在宅勤務を命じられました。不安と焦りを強く感じるなか、何としても会社で仕事を続けたいと思い、障害者職業総合センターで職業リハビリテーション訓練を受講。その甲斐あって、東京本社の事務職員として復職できました。慣れない職場でしたが、自分をバージョンアップしようと、産業カウンセラー、キャリアコンサルタント、障害者職業生活相談員の資格を取得。2016年からウェルネスサポートチームに配属され、会社の方々や家族、親族の協力や支えを得ながら、自身の経験や知識を生かした新たな取り組みにチャレンジしています。

現在は視覚障害1級ですが、自分は何をしたいのか、何に向いているのか、妥協せずにできるだけのことはやってみるべきだと強く思っています。

嶋垣 謹哉 会社員／認定NPO法人タートル 会員

1980年日立化成に入社、営業部門に配属。2001年網膜色素変性症が進行し、在宅勤務。職業リハビリテーション訓練を受講し、人事総務部門に復職。現在、ウェルネスサポートチームに所属。社外では、さいたま市障害者の権利の擁護に関する委員会委員や、さいたま市健康づくり推進協議会委員も務める。

見えなくても働く人々を支える、認定NPO法人タートルの役割。

私は視覚障害の当事者であり、認定NPO法人タートルの理事長を務めています。タートルは、視覚障害を乗り越えて働く、働き続けることを目標として、会員の体験をもとに、眼科医や支援機関などと連携を図りながら相談に乗り、支援を行っている団体です。

主な事業は、相談、交流会、情報提供、就労啓発です。相談事業では先輩当事者の体験や工夫を伝えつつ、眼科医や福祉施設の専門家などによる就労のためのアドバイスを行っています。交流会では経験を持つ先輩と交流し、働き続けるための勇気を得ます。また、眼科医、訓練施設、産業医などと連携し、就労のための情報提供を行い、継続就労の意欲を高めるためのセミナーや勉強会も開催しています。平成28年度の相談実人数（本人から）は227人。悩みや心配をお持ちの方、ご連絡をお待ちしています。

認定NPO法人タートル 理事長 松坂 治男

1995年に前身となる任意団体、中途視覚障害者の復職を考える会を設立。2007年にNPO法人化、15年に認定NPO法人タートルとなり、理事長に就任。視覚障害というハンディキャップを乗り越えて働く、働き続けるための相談や支援を行う。

会社に目の状態を伝えることで、できる範囲のサポートを得る。

網膜色素変性症と診断されて33年間、さまざまな仕事を経験しましたが、今、同級生が声をかけてくれたことがきっかけで電話受付営業に従事しています。職場では、解像度やコントラストを上げた大きなディスプレイを用意してもらったり、私が歩く通路に面する机の角にクッションを貼ってもらうなど、自分の状態を伝えることで、できる範囲の配慮を行ってもらえました。これまでの接客業務や営業補助の経験を生かし、自分でもどうしたら効率が良くなるかの工夫を重ねながら健常者と混ざって働いた結果、営業トップの成績を収めることができました。

ただ、このような会社ばかりではありません。障害者に対する社会の意識を変えるには、子どもの頃から健常者と障害者が混ざって勉強し、遊ぶことが大事だと考えます。教育の無償化よりも、「混ぜる教育」に予算を使ってほしいです。

川口 育子 契約社員

これまでに十数社ほどの会社に勤務しながら2人の子どもを育ててきた。現在は前職の実績を買われ、電話受付営業として勤務。支援センターで訓練を受けながら、本を出版しようとブログを執筆、ヒューマンライブラリーへの挑戦、NPOチャレンジド・フェスティバルに関わり、3月には二条城での朗読芝居に出演するなど、自分にできることを模索中。

視覚障害者の活動をサポートしながら、多様な就労支援技術を学ぶ。

2017年4月に出会った似顔絵師Kさんに、作品展示や似顔絵を描く仕事ができる場所として、通常作業終了後のエルビス・ワンを提供しました。これまでに7か所の就労支援事業所に通所した経験があるKさんは、視覚障害者の就労支援についてさまざまなアドバイスをくださりました。

例えば、黒い箱の中心に商品シールを貼る作業の際に、私は、「周囲の黒い枠の幅を一定にして」と説明していましたが、Kさんはそうせず、箱の右下の角からの距離を指で測り、中心位置を定めて貼りました。「全盲と弱視はまったく違うと思ってください」とKさん。そして、「新しい作業ができるようになるまでは、自分なりの努力を積んでいます。それを理解してほしい」と。そんなKさんの指摘に、障害者それぞれに作業を行う適切な方法があることを改めて学びました。

藤原 一秀 エルビス・ワン 就労継続支援B型事業所管理者

視覚障害、肢体不自由、自閉症、精神障害の方が通所する就労継続支援B型事業所エルビス・ワンを管理。過去4年間、東京大学先端科学技術研究センターの「魔法のプロジェクト」に、就労支援施設や大学生の就労支援事例として採択される。

パネル展示（８）

アイデア部門：入選

isee!"Working Awards"

アイデア部門　入選

既存のQRコードを活用した、書類やファイルの便利な仕分け法。

視覚障害者が就労で苦労するのが、書類やファイルの判別。弱視者は文字を白黒反転して拡大したものを貼ったり、全盲の方は点字シールを使うなどして対応しているのが現状です。そこで、既存のQRコードを活用した簡単な仕分け法を提案します。

まず、必要な情報（seikyusyoなど）をQRコードで作成し、対象物に貼ります。それをコードリーダーで読み取り、Bluetoothでスマートフォンに送信。情報が音声で読み上げられ、判別します。既存の技術・サービスで実現可能ですが、読み取りから読み上げまでをワンパッケージにしたアプリがあればさらに便利です。

将来的には、レストランのメニューなど街なかでも活用され、小型のコードリーダーとスマートフォンで識別できるようになれば、視覚障害者がより活動しやすい社会環境が実現できると思います。

長谷川 晋 認定NPO法人タートル 理事

出版社に勤務し、歴史、特別支援教育関連の雑誌、書籍の編集に携わる。とくに特別支援教育では、環境の調整と障害者の社会参加に興味をもつ。視覚障害者となってからは、パソコン、タブレット端末、拡大読書器を活用して、人事・管理の業務に従事する。認定NPO法人タートル理事。

視覚障害者が打つレジをお客さんが協力。シールを貼ってバーコードを読み取る。

視覚障害者がスーパーでレジを担当するためには、商品についたバーコードを機械で読み取る必要があります。バーコードの位置を判別するのは難しいので、商品を購入するお客さんがレジに並ぶ前に、各商品のバーコードの近くにテープを貼ってもらうというアイデアを提案します。視覚障害者はそのテープを頼りにしてバーコードを機械に通すのです。とくに2人体制のレジなら、視覚障害者は金銭を扱わずにバーコードの読み取りに専念すればいいので、より実現可能だと思います。お客さんと店員が協力しあう和やかなレジになるでしょうし、協力してくれたお客さんには後日使えるクーポン券を差し上げれば、利用も増えそうです。

そんなふうに、お客さんが協力することをきっかけに、健常者と視覚障害者がふれあえる場が社会に広がることを願っています。

西村 宏美 ガイドヘルパー

事務職として就労し、点訳などのボランティア活動にも参加。長年、両親の看病や介護を務めた経験から、認知症患者などの傾聴にも心がけている。2017年に視覚障害者の同行援護資格を取得、2018年より視覚障害者の外出サポートを始めた。

自ら望み、行動したことで得た 大舞台。朗読を仕事にするという夢に向かって。

網膜色素変性症で見えなくなっていく自分に何ができるかと考えた時、学生時代に放送部で全国大会に出場した経験から、声を使った仕事に就きたい思いが強くなりました。それを知人に話すと、プロの馬頭琴奏者との共演で、『スーホの白い馬』を朗読する機会を得ました。さらにそれがきっかけで、この3月10日、二条城での朗読芝居が決まりました。監督からは「視覚障害者だから採用したのではない」と嬉しい言葉をいただきました。朗読芝居の出演も、自ら望み行動した結果。どんな仕事もそうですが、人に何を与え自分が何を学ぶかが大事です。この舞台の価値が認められ、後援や協賛をいただくことができれば、仕事として成り立たせることも夢ではないと考えます。共生社会を目指す障がい者による芸術文化振興議員連盟の報告では、障害者の文化芸術活動に向けた支援を行う法律案が詠われています。国の支援も期待します。

川口 育子 契約社員

これまでに十数社ほどの会社に勤務しながら2人の子どもを育ててきた。現在は前職の実績を買われ、電話受付営業として勤務。支援センターで訓練を受けながら、本を出版しようとブログを執筆、ヒューマンライブラリーへの挑戦、NPOチャレンジド・フェスティバルに関わり、3月には二条城での朗読芝居に出演するなど、自分にできることを模索中。

視覚障害者が正しい知識を得て、アロマセラピストになるために。

全盲の鍼灸マッサージ師の方から「サロンにアロマを取り入れたい」と相談を受けました。室内芳香を希望され、道具探しに苦労しましたが、使いこなせるものが見つかりました。さらに、精油のブレンドにも興味を持たれ、「精油をボディマッサージに取り入れたい」とのことでしたが、精油には禁忌事項もあるので、「認定資格を取得されては？」とアドバイスしました。

正しい知識を得るためには認定試験に合格することも重要。ただ、関東の一部のアロマスクールには視覚障害者が学習できるクラスがあるようですが、実情は点字の教本や音声図書などを持ち合わせない認定校がほとんどです。そこで、アロマスクールでの視覚障害者の受け入れや、アロマセラピーの教本（点字やデイジー）の充実、職業訓練校での選択科目（アロマに関する授業）の実施を提案します。

井口 貴子 アロマテラピーアドバイザー/ハーバルセラピスト

アロマテラピーアドバイザー資格認定（日本アロマ環境協会）、ハーバルセラピスト資格認定（日本メディカルハーブ協会）。自宅サロン「BELLE VIE」にて東洋医学の経絡ハンドと組み合わせたアロマトリートメントを実施。またアロマクラフトのワークショップを主宰。アロマブレンドデザイナーとして視覚障害者ヨガの会場などに香りを提供。

視覚障害者の
ホントを見よう
isee!運動

パネル展示（９）

展示風景

イベント当日は、関係者の方、お付き添いの方を含め、多くの来場者、報道関係者のみなさまにも展示をご覧いただきました。
特に受賞者のパネルは、記念に撮影していかれる方も多く見られました。

受賞者パネル：パネル詳細（１）

事例部門：賞の紹介

受賞者に「就業者＝Player」としての喜びを感じていただくこと、また、今後の就業モチベーション向上を目的としてMVP (Most Value Player) 表彰の要素を含ませ、「isee!運動」のi.s.eの3文字を使い「MIP賞」「MSP賞」「MEP賞」「METP賞」を設けました。

●MIP賞

Most Inclusive Player賞
（周囲の協力を活用した事例）

●MSP賞

Most Strength Player賞
（経験を強みとした事例）

●MEP賞

Most Effort Player賞
（継続的な努力を重ねた事例）

●METP賞

Most Edgy Technology Player賞
（最新技術を活用した事例）

MIP賞：大橋 正彦 様

【就労事例部門】
MIP賞
Most Inclusive Player

徹底したワークシェアリングで、自分にできることを率先して担当。

視覚障害者第一号として『USEN』に入社しました。会社側の配慮で、パソコン画面の読み上げソフトや拡大表示ソフト、拡大読書器などは揃えてもらえましたが、社内の基幹システムへの対応は完全ではなく、与えられた環境で「できることをする」という状況にあります。「できること」とは、パソコンでのデータベースの閲覧やチェック作業、過去の経験を生かしたエンドユーザーとの電話での交渉などです。徹底したICTの導入によって、グループによるワークシェアリングが構築されているので、例えば、紙のデータ入力・管理などの苦手な仕事は先輩や同僚にお願いし、私に可能な作業や得意な作業を集中させるという働き方ができています。所属するグループは女性が中心。女性が対処しにくい作業や交渉は率先して担当するよう心がけ、シェアバランスを保てるように努めています。そうして築いた同僚や仲間との信頼関係は、どんな補償機器よりも力強いと確信しています。

視覚障害者の作業に制限があるのと同様に、子育て中の女性をはじめ、それぞれに制限を持って働いているのが現実です。政府が取り組む「働き方改革」の延長線上に、障害者雇用の問題解決策があるようにも思います。

審査員コメント

できないことに目を向けるのではなく、できることを同僚や仲間の分まで担うことで、ワークシェアリングをうまく機能させている彼の姿勢は、多くの視覚障害者にも学ぶ点が多く、就労問題に対する現実的な回答でもあると思います。この考えや働き方を、今後も引き継いでいかれることを願っています。

大橋 正彦 株式会社USEN／認定NPO法人タートル 会員

学生時代からアルバイトをしていた広告制作会社に就職。40歳の頃、眼科で緑内障の診断を受けるが、自覚症状もなかったため通院治療をしなかった結果、45歳を過ぎた頃に発症。障害者手帳を取得し、支援施設で職業訓練を受け、2012年に視覚障害者第一号としてUSENに入社。プライベートでは、認定NPO法人「タートル」に参加。自身の経験を活かし、精力的に活動している。

受賞者パネル：パネル詳細（２）

MIP賞：的場 孝至 様

【就労事例部門】
MIP賞
Most Inclusive Player

上司や同僚の理解と協力で、困難な事務所移転を乗り越える。

15年間勤務した事務所が移転することになりました。私は生まれつきの弱視で、15年前には0.02あった視力が徐々に下がり、今はほとんど見えない状況なので、新しい事務所に安全に通勤するための歩行訓練を受けることにしました。ただ、移転までは1か月。歩行訓練は平日のみ。そこで部長に、歩行訓練を勤務時間中に受けたいと相談すると、「しっかりと安全確保を行ってください」と了解を得ることができました。通勤ルート確認の際には、同僚たちが地図で、点字ブロックが敷設され、人込みが少なそうなルートを調べ、現地確認にも同行してくれました。歩行訓練は無事、終了しました。移転の日が近づくと、「慣れるまでは駅で待ち合わせて一緒に行こう」と同僚が声をかけてくれました。とてもうれしかったのですが、丁重に断りました。早く慣れるには、まず自分で実践することが大事だから。移転後の初出勤日は不安でしたが、歩行訓練の成果もあり無事に出勤できました。

移転して1年。上司や同僚からの協力は今もあります。帰宅時に途中まで一緒に歩いてくれたり、道路工事による環境の変化を教えてくれたり。恵まれた職場の人間関係に感謝しています。

審査員コメント

同僚とのすばらしい人間関係があることに感銘を受けました。きっと、ご本人が真摯な態度で仕事に取り組み、できない仕事はどうすればできるようになるか、あるいは無理な理由もきちんと説明できているからに違いありません。また、仕事の一環として歩行訓練を許可した企業の姿勢も評価したいです。すべての企業で普通のことになってほしいと願います。

的場 孝至 会社員

先天性白内障と後発性緑内障を患う。1997年京都産業大学を卒業後、（株）ピープル（現・（株）コナミスポーツクラブ）に入社。営業部の事務職として、拡大読書器、拡大ソフト、音声ソフトなどを用いて、主にエクセルでのデータ処理を行っている。視覚障害者の就労を支援する認定NPO法人タートルの理事も務める。

MSP賞：吉川 典雄 様

【就労事例部門】
MSP賞
Most Strength Player

知的財産に関する社内教育と、視覚障害者支援の活動に従事。

『オムロン』の知的財産センタに勤め、知的財産の戦略、制度、教育などを担当しています。社内教育では、新入社員や営業社員に向けて、知的財産の概要から、特許、商標、著作権、不正競争防止法についての要点、秘密保持に関する留意点などを解説する講義を行っています。効果的に行うために、受講生にテキストを読み上げてもらいながらコメント・質疑するかたちで進行するなど工夫しています。視覚障害者である私が講師となることは、新入社員には強い印象で受け止められ、「聴く姿勢」を喚起するとともに、ダイバーシティに対する会社の考え方を体感してもらう機会となっています。

普段の業務に加え、「働く中途視覚障害者」としての体験をもとに、視覚障害者の就業支援活動を社内外で行っています。社内では、職場の合理的配慮の促進を目的に、視覚障害者の情報共有のための懇談会を企画・運営。一般社員の啓発のための「視覚障害者の手引きセミナー」も実施しています。また、視覚障害者の特性を生かした商品やサービスの企画も試行中です。社外では、京都府視覚障害者協会職業部協力員として、「目の見えない人・見えにくい人の仕事サロン」を企画・運営しています。

審査員コメント

デザインや回路図をどのように理解し、知財法に照らして評価するのかといった具体的な仕事の方法に関心が湧きました。視覚障害があっても効果的な研修を行えるノウハウを社内外に伝えてほしいと思います。専門知識の蓄積は就労継続の鍵です。視覚障害としての経験を生かしてご自身が努力されていることはもちろん、企業の姿勢もすばらしいと感じました。

吉川 典雄 会社員

1982年に立石電機（現・オムロン）に入社。技術統括センタ知的財産室室長、センシング機器統括事業部企画室室長を務めるなか、2008年に緑内障と高度近視のため視覚障害者1級に。以降、本社機能部門で知的財産の戦略、制度、教育を担当。社内外の障害者就業支援活動にも取り組む。

受賞者パネル：パネル詳細（３）

MSP賞：山本 旭彦 様

【就労事例部門】
MSP賞
Most Strength Player

「ひとみ元気教室」の授業で、健常者と障害者の相互理解を深める。

『わかさ生活』では社会貢献活動の一環として、子どもたち（幼児～小学生）に目の健康を伝える出張授業「ひとみ元気教室」を、2007年より実施しています。「食育」か「視育（目の健康について学ぶ）」のいずれかのテーマで行い、それに加えて、2012年より「健常者と障害者の相互理解を深める授業」も実施し、私はその講師を務めています。その授業では、視覚障害についての理解や、不便さを補うための日常の工夫、手引き体験・食事の配膳位置の伝え方などの実習を行っています。私の見え方を疑似体験してもらうことで、決まった支援のかたちではなく、障害者の要望に耳を傾ける大切さを実感してもらっています。体験した子どもからは、「日常生活のなかで自然と声かけや手引きができるようになった」という声が聞かれます。授業の最後には、「視覚障害者だけでなく、困っている人を見かけたら『何かお手伝いしましょうか？』と声がかけられる優しい心を持ってください」とメッセージしています。このような活動を、ヘルスキーパー（企業等に雇用され従業員等を対象に施術等を行う）として従事する傍ら、継続的に実施。17年より大人（企業）向けにも開催しています。

審査員コメント

障害の特性を生かし、授業に健常者と障害者のふれあいを取り入れていることに意義を感じました。フランクに声をかけるという姿勢が子どもに根付けば、社会はもっとよくなるはず。また、ヘルスキーパーだけでなく、ほかの活動への積極的な参加が、社内でのポジションの確立につながっているのでしょう。社内での評価にもつながればよりよいと思います。

山本 旭彦 株式会社わかさ生活

網膜色素変性症により視力が低下し、2011年にヘルスキーパーとしてわかさ生活に入社。業務の傍ら、12年より出張授業「ひとみ元気教室」で、子どもたちと視覚障害者の相互理解を深める授業の講師として活動をスタート。17年からは企業向けの授業も開催している。

MSP賞：福島 憲太 様

【就労事例部門】
MSP賞
Most Strength Player

培った経験や技能を生かして、本物の文化を残す編集者に。

先天白内障などによる眼疾患で弱視、就職するまでしばらくフリーライターをしていました。2017年、自費出版する書籍について相談していた『井上出版企画』（群馬県利根郡みなかみ町）の代表の目に留まり、入社。私は事務に加え、広報や既刊書籍の電子書籍化を担当しています。これまで一般企業に勤めていた経験や個人としてホームページを作成した経験があり、そのノウハウを仕事に生かせるのが私の強みです。

労働時間は、週30時間。フルタイムで働いて体調を崩すより、月給は高くなくてもしっかりと休養できる雇用条件の方が長く働き続けられてよいかなと思っています（生活に余裕ができたら、あらたに小説を書き始めたいとも思っています）。

『井上出版企画』の創業理念は、「本物の文化を残す」こと。そのためにも視覚障害者の文芸作品や、障害者福祉・障害児教育に長年携われてきた方によるノンフィクションの刊行をお手伝いできればと考えています。よい原稿が書けても、障害に引け目を感じて出版社に持ち込めないという視覚障害者方もおられるのではないでしょうか。そんな方のお力添えになりたいです。

審査員コメント

視覚障害は移動が難しいため、地方での就労は都会に比べると難しいと言われていますが、出版業務とフリーライターという都会的な仕事を地方で行っていることに感銘を受けました。多様な働き方が求められているなか、これこそがユニバーサルな社会の働き方だと。近い将来、視覚障害の有名作家が生まれることに期待しています。

福島 憲太 株式会社井上出版企画

佛教大学卒業後、一般企業に10年間ほど勤め、フリーライターに。読売新聞、産経新聞などの新聞や雑誌に投稿記事が掲載される。『風疹をめぐる旅～消される「子ども」・「笑われる」国～』を井上出版企画から自費出版する予定。その打ち合わせ中、本への愛と情熱が代表の目に留まり、入社した。

受賞者パネル：パネル詳細（４）

MSP賞：阿部 久 様

【就労事例部門】
MSP賞
Most Strength Player

見えないなりの進み方がある。
失明と震災を乗り越えながら、鮮魚卸会社を経営。

青森市で魚の卸売業を営んでいましたが、約20年前に網膜色素変性症を患い、失明しました。そんな中でも諦めず、念願であるふるさとの石巻市に支店を設けることができました。魚体の張り、ぬめりなど手の感覚を集中させて魚に触れることで鮮度を選別しながら会社を経営。

しかし、東日本大震災の津波で石巻の自宅と工場を失い、仮設住宅に入居。会社の売上も半減。失意のどん底に陥ったが、2年後、北海道釧路市のイワシを目にして、再びイワシへの情熱が湧き上がりました。2014年には釧路市に隣接する白糠町にも支店を開設。約15名の従業員を雇い、順調な経営を続けています。漁師とも積極的にコミュニケーションを取り、イワシの鮮魚としての価値を高められるように漁業協会との橋渡し役を務めています。また、許可を得て船に乗り、イワシの鮮度の保ち方や漁法を指導するなど漁師との信頼関係も築いています。

見えないなりの進み方があり、ぶつかってみないとわからないこともたくさんあります。本気で学べば、誰でもできるはず。これからも復興をスローガンに、イワシのニーズを高めていけるよう精力的に活動します。

審査員コメント

魚の鮮度は眼の色や艶を見て判別しますが、それを手の感触だけで見極め、さらにはその能力で卸会社を経営され、被災後も不屈の精神で会社を発展されていることにとても驚かされます。鍼灸マッサージは触覚の優れた視覚障害者に適した職業と言われますが、さまざまな業種に視覚障害者が関わり、活躍できるのではと大きな可能性を感じさせられました。

阿部 久 鮮魚卸会社経営

青森市でイワシなどの鮮魚卸売業を経営していたが、46歳頃に網膜色素変性と判明し失明。東日本大震災で被災し、石巻の自宅と工場を失うも、北海道釧路地区の白糠町に支店を設立。現在、青森の本店を拠点に約30名の従業員とともに、鮮魚出荷の卸売業とイワシ漁を広める活動を続けている。

MEP賞：六川 真紀 様

【就労事例部門】
MEP賞
Most Effort Player

多くの方のサポートで復職～
公私ともに充実した毎日を。

2009年に視覚障害者として保険会社に入社しましたが、時が経つにつれ、パソコンの文字や書類が読みにくいなど、視力・視野の低下が進んでいました。継続就労が可能か不安になっていた頃、脳内出血で入院。5か月半、休職しました。目に関して産業医に相談したところ、ロービジョンに詳しいかかりつけの眼科医に私の状況を伝えてくださり、眼科医からは、音声読み上げソフトを使ってパソコンを操作するための訓練施設や支援団体を紹介していただきました。他方、会社人事担当者が訓練施設へ赴き、会社のパソコンにJAWS（音声読み上げソフト）を導入しました。

復職後、就業しながら訓練施設での訓練や、ジョブコーチ（職場適応援助者）による訓練も受け、会社独自のシステムにも対応できるようになりました。ただ、暗がりでの作業や書類の素早い読み込み、迅速な行動など苦手な作業はリーダーや同僚と共有し、サポートを依頼しています。また、障害者採用された社員を募り、会社組合とのヒアリングの場を設け、待遇や体調面での悩みについて話し合っています。社外では、支援団体のサロンや講演会で多くの方と交流し、公私ともに充実した毎日を過ごしています。

審査員コメント

産業医から眼科医へ情報提供が行われ、当事者団体と訓練施設につながり、在職者訓練とジョブコーチを利用して職務に適応するという、中途視覚障害者の職場復帰のモデルケースと言えます。一人で思い悩むのでなく、発言し、行動することで理解者を増やしたご自身の行動もいい変化を呼び込んだと思います。

六川 真紀 会社員／認定NPO法人タートル 会員／JRPS東京 会員

2009年に11年間勤めた銀行を退職。同年、保険会社へ入社。営業企画部マーケティング室で経理、庶務、総務を担当。周囲の協力や定年まで勤め上げる目標を掲げた強い意志と行動で、視覚障害者が働きやすい環境を整備。労働大学校や社外人材交流会で復職に関する講演も行った。

受賞者パネル：パネル詳細（５）

MEP賞：木暮 雅寿 様

【就労事例部門】
MEP賞
Most Effort Player

自ら提案し、実行する、見えない自分だからこそできる業務！

社内での業務の一つは、朝礼のメール配信です。朝礼に参加できなかった社員に、朝礼の内容を配信しています。二つ目は、新入社員や中途入社者を対象にした電話に対する考え方研修。全盲の視覚障害者にとって「声だけのコミュニケーション」は日常のこと。上手なコミュニケーションのポイントを共有します。三つ目は、コールセンターの対応品質管理。言葉遣いや相づちなどが適切に行われているかをモニタリングします。四つ目は、社員面談の実施。五つ目は、CSR担当者として行う地域社会貢献活動。小学校の訪問授業では、子どもたちの質問に答えながら、弱視、全盲、色弱、視野狭窄、先天性、中途など、視覚障害者にもさまざまな見え方、見えにくさがあり、白杖を持っているから「見えない人」ではないことを理解してもらっています。回を重ねるごとに、通勤途中に子どもたちから声をかけられたり、地域や小学校のイベントに呼んでいただいたり、地域に育まれていることを実感しています。

これらの業務は、自ら提案し、採択され、運用しているものばかりです。「見えない自分だからこそできること」という発想で企画しています。

審査員コメント

電話という「見えない相手とのコミュニケーション」に視覚障害者の特性を生かしていることや、地域の小学校の福祉教育に尽力されていることが評価できます。あまり気づかれなかった具体的な視覚障害者就労の実例が満載で、まさに「バリアバリュー」の実践家です。今後の活動にも期待しています。

木暮 雅寿 株式会社アクトコール

糖尿病からの合併症で2010年に全盲となり、腎機能障害も発生。14年、障害者雇用第一号としてアクトコールに入社。夜間は透析を行いつつ、平日はほぼフルタイムで勤務。CSR担当として地域小学校の福祉教育にも携わっている。

MEP賞：藤田 善久 様

【就労事例部門】
MEP賞
Most Effort Player

不可能と思われた就労継続を可能にしたものとは？

熊谷組で現場監督として従事していた30歳のとき、工事現場での不慮の事故により、頭蓋骨骨折、脳挫傷、両眼眼球破裂を負い、一瞬にして視覚障害者となる。入院中、生き続けることなどへの恐怖感で毎晩涙を流していたが、眼科医の高橋広先生から、様々な方との面談の席や、自立・職業訓練校などの情報提供により、閉ざされた闇の中に輝く光が見えたことを覚えています。復職に向けて心の舵を切った後、福岡視力障害センターと日本ライトハウスで、それぞれ1年間の訓練を受講。訓練成果を復職後の業務に繋げるべく、訓練の成果を人事担当者に毎月報告。社内のネット環境が切り替わったことを知り、本社・支店への支援要請後、関西支店でネット環境の訓練を実施。事故から3年後、念願の復職を果たす。一方、タートルで九州地区の理事を受け持ち、視覚障害者の就労支援に努める。一人では乗り越えられない壁でも、周りの方に協力依頼をすることで、乗り越えられる壁は必ずある。妙なプライドを捨て、習得すべきものに踏み出す勇気と、絶対に負けたくないという闘争心を持てば、蓄積された経験値がゆとりに転換される。自分から行動し、可能性を高めてください！

審査員コメント

失明した3年後に復職を果たすというのは驚異的です。眼科医、支援団体、訓練施設、労働機関、事業主からの支援と併せ、必要とする時期に必要とする方々の連携があったからこそ、短期間での復職を遂げられたのでしょう。全盲者が購買業務に従事できたのも、視覚障害になる前の業務に一生懸命取り組んでこられたから可能になったことだと思います。

藤田 善久 株式会社熊谷組／認定NPO法人タートル 九州地区理事

高校卒業後、建設会社に入社し、現場監督として従事するも5年後に倒産。翌年、熊谷組に入社し、現場監督に。2004年に工事現場で事故に遭い、視覚障害者となる。1年間の入院後、2つの施設で2年間の訓練を受講。07年に復職を果たす。現在は、建設機材・資材を調達する購買業務に従事している。

受賞者パネル：パネル詳細（６）

METP賞：伊敷 政英 様

【就労事例部門】
METP賞
Most Edgy Technology Player

当事者性と専門性を生かした業務で、「視覚障害は情報障害」と言わせない！

インターネットは、視覚障害者の自立や社会参加に欠かせません。ところが、ウェブサイトへアクセスすると、写真や動画の内容がわからない、クリックするとどこへ行くのかわからないなど多くのバリアが存在します。そこで、視覚障害者にも健常者にも使いやすいサイトをつくるために、ITコンサルティング会社でウェブアクセシビリティのコンサルタントとして業務を開始しました。ところが、30歳頃から目の具合が悪くなり、角膜移植を4回受けましたが、拒絶反応のために視力は移植前の0.01に。会社も休みがちになり、退職しました。それでも思い直し、個人事業としてアクセシビリティの仕事を開始。大手金融機関、電機メーカー、障害者団体などのウェブサイトの改善や、最近は神戸市のアクセシビリティ研修講師も担当しています。

AIやIoTなど、今、IT環境はめまぐるしく進歩しています。ただ、障害当事者が知見を持ったうえで発言し、アクセシビリティを確保しなければ、せっかくの夢の技術が台無しになります。視覚障害者の自立や社会参加を進めるために不可欠な情報の取得と発信。それを支えるアクセシビリティの確保と向上を目指し、今後も仕事を続けていきます。

審査員コメント

障害当事者としての経験とウェブの専門知識を組み合わせて起業するという姿勢は、起業家を目指す視覚障害者に大きなヒントを提供しています。また、視覚障害者が画面読み上げソフトでウェブアクセシビリティ評価を行うことはありますが、それを個人で行い、日本工業規格の規格づくりに弱視者として参画するのも例を見ない活動。さらなる活躍を応援します。

伊敷 政英 Cocktailz　アクセシビリティコンサルタント

ITコンサルティング会社に入社後、30歳頃から目の状態が悪化。2010年8月よりCocktailzとして個人での業務を開始し、民間企業や自治体のウェブサイトにおけるアクセシビリティ改善業務を行い、ウェブアクセシビリティセミナーや職員研修での講師も務める。2014年には日本工業規格「高齢者・障害者等配慮設計指針」の原案作成に携わる。

METP賞：岸本 将志 様

【就労事例部門】
METP賞
Most Edgy Technology Player

障害を強みに変えて独立開業。ICTの力で生活と就労を支援します。

生まれつき両手の機能障害と弱視があります。障害者の役に立てる仕事に就きたいと思い、関西学院大学の社会福祉学科に進学。身体障害者入所施設でパソコン活用を補助するボランティアも行いました。医療機器メーカーにシステムエンジニアとして就職しましたが、障害が悪化し、独立開業を決意しました。2014年に障害者向けの訪問パソコン講座の事業を開始。パソコンの設定を変更したり、スマートフォンなどのタッチ操作を補助する自助具を紹介したりと幅広い対応が必要ななか、視覚障害者用ICT機器に関する知識や、複数の障害を持つ自身の経験が役立っています。個人宅に訪問する際はスマートフォンのGPSセンサや地図アプリなどを駆使することで、弱視者には難しいとされていた顧客訪問や営業活動を実現しています。

現在は障害者の入所施設などでもサポートを提供しつつ、兵庫県視覚障害者福祉協会で、県下の視覚障害者から寄せられるICT機器に関する相談や修理を担当。ICTシステムの導入支援や、視覚障害者のための情報提供アプリの開発にも携わっています。今後は、視覚障害者がICTの知識や技術を活用して就労の幅を広げるための講習会を開催したいと考えています。

審査員コメント

近年、盲学校では視覚障害と他の障害を併せた重複障害の生徒が増えており、ほとんどが福祉事業所に進んでいるのが実情です。岸本さんは視覚、上肢ともに重度障害であるにも関わらず、高い志を持ち、自身の特性を認識し、必要なスキルを磨きながら就労されています。就労を希望する重複障害の人たちに大きな勇気を与えてくれるでしょう。

岸本 将志 自営業（講師業）福祉情報コーディネーター

先天性の両上肢機能障害と弱視を持って出生。2002年関西学院大学社会学部に入学。身体障害者入所施設でパソコン教室のボランティアを行う。09年大阪電気通信大学大学院医療福祉工学研究科修了、医療機器メーカーに入社。11年に独立開業し、16年に兵庫県視覚障害者福祉協会のICTサポートを担当。

受賞者パネル：パネル詳細（７）

アイデア部門：賞の紹介

どうすればもっと働けるのか、あるいはどんな働き方ができるか。どのアイデアも非常に多面的でありましたが、一番評価したいポイントで賞を決めました。ここから実現に向かうアイデアがでることを期待しています。

●価値転換賞

障害（弱み）を強みとする
発想転換のアイデア

●環境整備賞

ロービジョンの方の就業促進に配慮した
環境整備・啓蒙活動に関するアイデア

●ビジネスプラン賞

実現可能性とビジネス要素を
多く含んだアイデア

価値転換賞：矢野 貴美子 様

【アイデア部門】
価値転換賞

美術作品のさわり方を解説する、アートトランスレーターという仕事。

私が副館長を務める、六甲山の上美術館「さわるみゅーじあむ」では、すべての作品を「さわって」鑑賞していただいています。その際に、作品に関して説明できる担当者がいれば、来館者はより楽しく、深く、作品を体感することができます。そこで、当館では、芸術作品の「翻訳」を手伝うアートトランスレーターを、健常者と視覚障害者の区別なく育成したいと考えています。むしろ、さわるということに関しては視覚障害者の方が長けているかもしれません。健常者は、「見えているから、さわらなくてもわかる」と勘違いしている人が多いように思いますが、作品の表面の質感、研摩の跡、重量感など、さわらなければわからないことはたくさんあるのです。

アートトランスレーターになるための検定試験を実施し、初級、中級、上級と3段階のレベルを設定。検定試験を受ける前には、美術館で研修も行います。職員となった方は、当館の仕事とアートトランスレーターの仕事を兼務していただきます。アートトランスレーターの主な仕事は、各地の美術館や博物館、公共施設などで行うアートシェアリングや展示会での活動です。スキルに応じて給与もアップしていくようにと考えています。

審査員コメント

興味深いアイデアです。受け身になりがちな視覚障害者が、芸術に関する情報の発信側に立つことで、視覚障害者の文化の向上が図られるとともに、芸術の解釈にも新たな深みを与えられるのではないでしょうか。目を閉じて、手の感触だけで美術品を鑑賞するのはスリルもあり、とても新鮮な感覚を覚えるもの。具体化を期待しています。

矢野 貴美子 六甲山の上美術館副館長

高校卒業後、ドイツ宝石研究所で宝石学ディプロマを取得。1992年ドイツのイーダ・オーバシュタイン市博物館開館60年祭を主催。2013年兵庫県神戸市の六甲山にあった元・保養所を改装し、六甲山の上美術館「さわるみゅーじあむ」としてオープン。副館長を務める。

受賞者パネル：パネル詳細（８）

価値転換賞：NPO法人ウェルネスハート with ミートアップチーム様

【アイデア部門】
価値転換賞

ブレッドセラピーを兼ねた、視覚障害者のためのパン教室を開講

視覚障害者には仕事ができないという、社会の思い込みがあります。そのような誤解を払拭するため、弱みを強みに替え視覚障害者のことをもっと知ってもらえる「ブレッドセラピーを兼ねたパン教室」を提案します。製パンには、パン生地をこねる（触覚）、発酵を確認する（嗅覚）、味を確認する（味覚）など、視覚障害者の特性を発揮できる作業が多く含まれています。パン教室は、受講者が習得した製パン技術を活かして就労支援も行え、職業訓練になります。また、パン生地独特の柔らかさや香りには、心を癒す力があります。海外では、製パンによる視覚障害者のブラッドセラピー療法も行われていて、中途視覚障害者の自尊心を取り戻すきっかけになっています。教室に晴眼者も参加すれば、セラピー効果とともに相互理解を深めることができます。さらに、パンを販売するカフェを併設することで、受講生をパン職人として雇用することもできます。製パンに地域の食材を活用すれば、地域とのつながりも築けるでしょう。カフェは、情報弱者となりがちな視覚障害者が、就労や日常生活のための情報を交換、共有できる場としても活用します。

審査員コメント

地域の食材を使い、オリジナルのパンを焼き、企業化。さらには、ブレッドカフェを開くという壮大な計画です。ただ、障害の種別に関わらず、障害者の就労について、パンやクッキー製造、カフェなどのアイデアはよく耳にすることではあります。そういった先行事例のノウハウを取り入れれば、より実現に近づけられると思います。

NPO法人ウエルネスハート with ミートアップチーム

「より良く生きる」という思いを込めた、NPO法人ウエルネスハートの活動の一つである「ミートアップ」は、【視覚障害者の働き方にイノベーションを興そう】をテーマに話し合う集まり。「ブレッドセラピーを兼ねたパン教室」もミートアップから生まれた。

環境整備賞：神田 信 様

【アイデア部門】
環境整備賞

3月29日を「ロービジョンの日」に！視力障害者の環境向上を呼びかけよう。

1年にはさまざまな「記念日」があり、ユニークな記念日はニュースに取り上げられ、話題になります。そこで、私も記念日を提案します。「ロービジョンの日」です。「見にくい」をもじって、3月29日。ロービジョンとは何かを周知し、ロービジョンを取り巻く環境が向上するように、メディアに話題を提供できるきっかけを作ります。

JRPS（日本網膜色素変性症協会）が9月23日を「網膜の日」と制定し、日本記念日協会に認定されました。9月23日は秋分の日で、昼と夜の長さがほぼ同じ。網膜に疾患があると昼間は普通に見えても、夜は見えなくなり、不自由を感じる方がおられることを知ってもらうのが主な目的です。制定記者発表の様子は、ラジオ番組で取り上げられ、話題になりました。「ロービジョンの日」とする3月29日は、新学期や年度替わりを目前にした時期です。新しい環境に身を置くことを機に、「視覚障害をカミングアウトしよう」「白杖をついて歩くようにしよう」と、それぞれの思いを実践するチャンスにもなるはず。その思いを周りの人や社会が受け止めたり、視覚障害者を取り巻く環境向上のきっかけに活用されるようになればうれしいです。

審査員コメント

記念日が「ないならつくればいい」という発想がユニーク。「目の愛護デー」はその名のとおり、目を大切にしようという意味合いが強いけれども、それとは異なる「見え方、見えにくさ」に着目した記念日があれば、ロービジョンへの理解が進むかもしれません。

神田 信 会社員／認定NPO法人タートル 理事／JRPS神奈川 幹事

約30年前より網膜色素変性症を患う。メガネの三城で店舗開発部門に長年従事。視覚障害者になったことで、視覚障害者のために役立つ仕事をしていきたいと考えている。認定NPOタートル、JRPS神奈川でも活動し、2016年より日本盲人会連合の弱視に関する委員会にも参加。

受賞者パネル：パネル詳細（９）

環境整備賞：伴 英軌 様

【アイデア部門】
環境整備賞

弱点を補い合って就活し、働く、障害者の「チーム就労」の導入を！

障害者は日常生活さえ困難なのに、就職活動を一人で行っていることに疑問を感じていました。入社後も、企業によっては合理的配慮や支援が不十分だったり、仕事が限定されるなど、さまざまな課題があります。どうすれば企業が視覚障害者を受け入れやすくなるのか、視覚障害者が働きやすくなるのかと考えた結果、障害者同士、あるいは、健常者とチームを組んで就労する「チーム就労」というアイデアに至りました。

まず、家が近く、互いの弱点を補い合えるような2人がチームをつくります。例えば、視覚障害者が聴力と話力を提供し、聴力障害者が視力を提供すれば、2人で補い合えます。相性が合えば、アイセンターや就労支援施設でチームワークを練習し、その後、チームで仕事を選び、面接に出かけ、就職後もチームで同じ仕事に従事します。チームを組むことで職種の選択肢が広がり、互いにできない仕事は相棒に任せ、２人で励まし合いながら仕事に取り組めます。能力の幅も広がり、長く勤められる可能性も高まるはず。企業側には、２人同時に雇うことで配慮の負担が減るだけでなく、周囲の社員は障害者への接し方を、相棒の言動を見ながら学習できるというメリットもあります。

審査員コメント

視覚障害者がほかの障害者とペアを組んで就職活動するのは一つの方法ですし、障害者が相互に弱点を補うことで就労の可能性が広がるのも素敵なアイデアだと思います。ただ、デメリットもあります。例えば入社後、一人が休みを取ると、もう一人も勤務できなくなるのは大きな制限。企業側の視点を加えて検証すれば、さらにいいアイデアになりそうです。

伴 英軌 会社員

名古屋大学理学部卒業。広島大学大学院理学研究科博士課程後期中退後、約4年ほど私立女子高校にて非常勤講師を勤める。金属加工会社の設計部・生産技術部を経て、現在は高等技術専門校生。

環境整備賞：井上 直也 様

【アイデア部門】
環境整備賞

既存の製品シグナルエイドを用いた、SOSサインの発信・受信システム。

街なかで困っても、支援を求める声を出すのが苦手な視覚障害者は多いはず。歩いている方々も、「どう声をかけていいかわからない」と支援できずにおられます。そこで、困ったときに小型携帯端末のボタンを押せば、その電波を受信して光る信号機や音声装置を、駅やバス停、歩道、店舗や施設などに設置。装置が光や音でSOSサインを発すると、サインを受け取った方々が困っている視覚障害者に気づき、声をかけるというシステムを提案します。使用するのは、エクシオテックの「シグナルエイド」という製品で、日常生活用具給付対象品に指定されています。既存の製品を活用することで、一から開発しなくていいというメリットがあります。

通勤時の困難も解消できます。視覚障害者が企業に採用されにくい理由に、労災事故の懸念もあると聞いたことがあります。最近は、時差通勤や自宅勤務などの配慮もありますが、多くは健常者と同じ通勤が求められています。困ったときに「困った」と言える環境を整えることも、事故を未然に防ぐ方法の一つ。なお、アイデアの実現には、エクシオテック、総務省、国土交通省、鉄道・バス事業者、企業や行政などの協力が必要だと考えています。

審査員コメント

盲学校には、鍼灸マッサージの技術は高くても、歩行能力が不十分で通勤に自信がないために就職先の選択肢が制限されるという生徒がいます。在宅就労などは別として、視覚障害者が職業スキルを発揮するためには、安全に通勤できることが大前提。その意味で、視覚障害者の就労の可能性を広げるための基礎となるアイデアだと思います。

井上 直也 MDSiサポート代表/認定NPO法人タートル/NPO法人片目失明者友の会/パソコンボランティア青梅

高校卒業後、企業で8年間営業職を務め、4年間飲食店で勤務。2014年に両眼とも網膜剥離の診断を受け、右目は失明していたことがわかる。現在は両眼ともに全盲。2016年に視覚障害者向けのiOSのプライベートレッスンを開始し、同年MDSiサポートを開業。現在は、iOSを用いたデジタルロービジョンケアを行っている。

受賞者パネル：パネル詳細（１０）

ビジネスプラン賞：stera 様

【アイデア部門】
ビジネスプラン賞

携帯ショップの待ち時間を利用した、無料マッサージのサービスを。

先日、携帯ショップを訪れた際、たくさんのお客さんで混雑していました。私も番号札を取って順番を待っていたとき、「お待ちいただくあいだに、無料のハンドマッサージはいかがですか？」という案内を受けました。そのときはお断りしましたが、肩のマッサージだったらお願いしてもいいなと後で思いました。ちょっと肩が凝っていたので。

そこで一つ、アイデアを思いつきました。携帯ショップに限らずいろいろなお店での待ち時間に、無料のマッサージを受けることができれば、お客さんは退屈しないし、混雑時の気分を和らげながら体もリフレッシュできるのでは、という提案です。

マッサージ師は携帯ショップと雇用契約を結ぶことができれば、一定の所得になりますし、顧客は無料で気軽に利用でき、得した気分にもなるでしょう。もちろん、本格的な治療を目的としたものではなく、数分間、肩回りをマッサージするだけでいいと思います。携帯ショップ以外にも、美容室や薬局など街のさまざまな店舗にサービスとして導入され、マッサージ師の雇用の機会が広がることを期待しています。

審査員コメント

素晴らしいアイデアです。店舗、顧客、マッサージ師の３者の利益になり、しかも、今日からでもできるシンプルな取り組み。無料なのでニーズも高い気がします。このような日常のちょっとした気づきが、障害者雇用の大きな効果に結びつくもの。このサービスを有用だと捉え、マッサージ師を雇用する事業者があるかどうかが課題ではありますが。

stera

ビジネスプラン賞：鈴木 貴達 様

【アイデア部門】
ビジネスプラン賞

視覚障害者の物件探しにotomoする、仲介手数料0円の「おとも不動産」。

視覚障害者の引っ越しには多くの課題があります。まずは、物件探し。間取り図をイメージするには、詳しい説明が必要です。見学も、壁等に触れて確認するので時間がかかります。視覚障害者と関わる機会が少ない不動産会社では、対応がスムーズにいかず、契約に繋がらないケースも多いようです。視覚障害者も途中であきらめたり、納得できないまま契約することもあるようです。

最近は視覚障害者の雇用も進んでいますが、ヘルスキーパーなどのお仕事は都心に集中していて、引っ越しを伴う転職も少なくありません。そして、引っ越しが決まると、駅までの道のりや利用しやすいスーパーなどを探し、「メンタルマップ（頭のなかに描く地図）」をつくることが必要になります。

そこで、同行援護専門の事業所『otomo』の新サービスとして、視覚障害者の物件探しにotomo（お供）する「おとも不動産」を提案します。一緒に物件を探し、契約書の代筆や代読も担当。入居後のメンタルマップづくりも可能です。さらに仲介手数料も無料です。平成30年2月のサービス開始予定です。

審査員コメント

誰も思いつかなかったアイデア。多くの視覚障害者が待っていたサービスで、視覚障害者が暮らしやすい社会につながる意義のある取り組みだと思います。協力してくれる不動産屋があることも前提になりますが、すでに準備を進められているようですので、ぜひ実現を。歩行訓練が必要な場合は、訪問指導を提供する機関との連携まで広げられれば。

otomo

鈴木 貴達 otomo／リンクス株式会社　代表取締役

1983年東京都生まれ。母親が視覚障害者であることがきっかけで、2017年に同行援護専門の事業所「otomo」を開設。同行援護のみならず、外出先をつくるイベントの企画・展開、ガイドヘルパーの育成など、今までにない新しい価値をつくるために挑戦しています。

受賞者パネル：パネル詳細（１１）

入賞：梅澤 正道 様

職場の協力で高まった勤労意欲。あきらめかけた事務の仕事を定年まで。

網膜色素変性症により見えなくなっていくなか、就労継続について眼科医に相談。ロービジョンケアに熱心な眼科医から紹介された、認定NPO法人タートルの先人たちの助言でITのスキルを身につけ、資格を取得し、諦めかけていた事務職の仕事を65歳の定年まで続けることができました。その要因は、気兼ねなく相談できる職場の協力体制があったこと。紙の文書は見えにくいため、専任のアシスタントや同僚が必要に応じてメールで返答してくれたり、パソコンがフリーズしたときは情報システム部門が解決してくれました。また、スクリーンリーダーが動作する電子文書管理ソフトと複合機を活用した文書情報の電子化を、社内で提案しました。文書情報の共有化が図られ、迅速に検索、閲覧できるようになったと高い評価を受け、達成感が得られました。そんな協力体制があったからこそ勤労意欲が高まり、仕事を続けられたと思っています。

梅澤 正道 認定NPO法人タートル 会員

網膜色素変性症患者の私は、49歳のときから徐々に見えなくなり、社会福祉法人日本盲人職能開発センターでパソコンなどの視覚障害補償機器技術を習得し、復職。２年後の５２歳のとき、特殊法人が解散。2006年より再就職先の公益財団法人に勤務。2016年に65歳で定年退職。

入賞：木村 朱美 様

就労に欠かせないITの職業訓練校や、その指導者を増やすための取り組みを。

網膜色素変性症との診断後、2005年に全盲に。朝5時から夜12時過ぎまで主婦業と子育てに奮闘しながら、大阪府ITステーションのパソコン教室に通い、音声パソコンの使い方を2年間学びながら、音声起稿師養成講座を受講。さらに、日本ライトハウスでパソコンの訓練を受けて就労を目指すも、父親の介護のために就労を断念。介護を手伝いながら、取得した音声起稿師の資格を生かし、在宅テレワーカーとして大阪府や視覚障害者団体などからのテープ起こし業務を受注。視覚障害者を対象にしたパソコン操作のサポートも行っています。

私自身の経験から実感するのは、視覚障害者に対する職業訓練校が少ない現状。健常者と一緒に就労するために不可欠なITに関する基礎講習や職業訓練が受けられる場と、その指導者をもっと増やしてほしいと願います。

木村 朱美 音声起稿師・パソコン講師

第2子を出産後、網膜色素変性症と診断され全盲に。大阪府ITステーションで音声パソコンを学習、音声起稿師養成講座を受講し、資格を取得。在宅テレワーカーとしてテープ起こしの仕事を受注。視覚障害者へのパソコンサポートも行っている。日本情報処理検定協会パソコンスピード認定試験2級取得。大阪府障がい者ITサポーター。起稿事務所 「ドリームス」 代表。

受賞者パネル：パネル詳細（１２）

入賞：嶋垣 謹哉 様

視覚障害を患いながらも継続就労。新たな職場で、経験を生かした挑戦を。

営業職を務めていましたが、入社後17年目に患った網膜色素変性症が進行し、在宅勤務を命じられました。不安と焦りを強く感じるなか、何としても会社で仕事を続けたいと思い、障害者職業総合センターで職業リハビリテーション訓練を受講。その甲斐あって、東京本社の事務職員として復職できました。慣れない職場でしたが、自分をバージョンアップしようと、産業カウンセラー、キャリアコンサルタント、障害者職業生活相談員の資格を取得。2016年からウェルネスサポートチームに配属され、会社の方々や家族、親族の協力や支えを得ながら、自身の経験や知識を生かした新たな取り組みにチャレンジしています。

現在は視覚障害1級ですが、自分は何をしたいのか、何に向いているのか、妥協せずにできるだけのことはやってみるべきだと強く思っています。

嶋垣 謹哉 会社員／認定NPO法人タートル 会員

1980年日立化成に入社、営業部門に配属。2001年網膜色素変性症が進行し、在宅勤務。職業リハビリテーション訓練を受講し、人事総務部門に復職。現在、ウェルネスサポートチームに所属。社外では、さいたま市障害者の権利の擁護に関する委員会委員や、さいたま市健康づくり推進協議会委員も務める。

入賞：認定NPO法人タートル様

見えなくても働く人々を支える、認定NPO法人タートルの役割。

私は視覚障害の当事者であり、認定NPO法人タートルの理事長を務めています。タートルは、視覚障害を乗り越えて働く、働き続けることを目標として、会員の体験をもとに、眼科医や支援機関などと連携を図りながら相談に乗り、支援を行っている団体です。

主な事業は、相談、交流会、情報提供、就労啓発です。相談事業では先輩当事者の体験や工夫を伝えつつ、眼科医や福祉施設の専門家などによる就労のためのアドバイスを行っています。交流会では経験を持つ先輩と交流し、働き続けるための勇気を得ます。また、眼科医、訓練施設、産業医などと連携し、就労のための情報提供を行い、継続就労の意欲を高めるためのセミナーや勉強会も開催しています。平成28年度の相談実人数（本人から）は227人。悩みや心配をお持ちの方、ご連絡をお待ちしています。

認定NPO法人タートル 理事長 松坂 治男

1995年に前身となる任意団体、中途視覚障害者の復職を考える会を設立。2007年にNPO法人化、15年に認定NPO法人タートルとなり、理事長に就任。視覚障害というハンディキャップを乗り越えて働く、働き続けるための相談や支援を行う。

受賞者パネル：パネル詳細（１３）

入賞：川口 育子 様

会社に目の状態を伝えることで、できる範囲のサポートを得る。

網膜色素変性症と診断されて33年間、さまざまな仕事を経験しましたが、今、同級生が声をかけてくれたことがきっかけで電話受付営業に従事しています。職場では、解像度やコントラストを上げた大きなディスプレイを用意してもらったり、私が歩く通路に面する机の角にクッションを貼ってもらうなど、自分の状態を伝えることで、できる範囲の配慮を行ってもらえました。これまでの接客業務や営業補助の経験を生かし、自分でもどうしたら効率が良くなるかの工夫を重ねながら健常者と混ざって働いた結果、営業トップの成績を収めることができました。

ただ、このような会社ばかりではありません。障害者に対する社会の意識を変えるには、子どもの頃から健常者と障害者が混ざって勉強し、遊ぶことが大事だと考えます。教育の無償化よりも、「混ぜる教育」に予算を使ってほしいです。

川口 育子 契約社員

これまでに十数社ほどの会社に勤務しながら2人の子どもを育ててきた。現在は前職の実績を買われ、電話受付営業として勤務。支援センターで訓練を受けながら、本を出版しようとブログを執筆、ヒューマンライブラリーへの挑戦、NPOチャレンジド・フェスティバルに関わり、3月には二条城での朗読芝居に出演するなど、自分にできることを模索中。

入賞：藤原 一秀 様

視覚障害者の活動をサポートしながら、多様な就労支援技術を学ぶ。

2017年4月に出会った似顔絵師Kさんに、作品展示や似顔絵を描く仕事ができる場所として、通常作業終了後のエルピス・ワンを提供しました。これまでに7か所の就労支援事業所に通所した経験があるKさんは、視覚障害者の就労支援についてさまざまなアドバイスをくださりました。

例えば、黒い箱の中心に商品シールを貼る作業の際に、私は、「周囲の黒い枠の幅を一定にして」と説明していましたが、Kさんはそうせず、箱の右下の角からの距離を指で測り、中心位置を定めて貼りました。「全盲と弱視はまったく違うと思ってください」とKさん。そして、「新しい作業ができるようになるまでは、自分なりの努力を積んでいます。それを理解してほしい」と。そんなKさんの指摘に、障害者それぞれに作業を行う適切な方法があることを改めて学びました。

藤原 一秀 エルピス・ワン 就労継続支援B型事業所管理者

視覚障害、肢体不自由、自閉症、精神障害の方が通所する就労継続支援B型事業所エルピス・ワンを管理。過去4年間、東京大学先端科学技術研究センターの「魔法のプロジェクト」に、就労支援施設や大学生の就労支援事例として採択される。

受賞者パネル：パネル詳細（１４）

入賞：長谷川 晋 様

既存のQRコードを活用した、書類やファイルの便利な仕分け法。

視覚障害者が就労で苦労するのが、書類やファイルの判別。弱視者は文字を白黒反転して拡大したものを貼ったり、全盲の方は点字シールを使うなどして対応しているのが現状です。そこで、既存のQRコードを活用した簡単な仕分け法を提案します。

まず、必要な情報（seikyusyoなど）をQRコードで作成し、対象物に貼ります。それをコードリーダーで読み取り、Bluetoothでスマートフォンに送信。情報が音声で読み上げられ、判別します。既存の技術・サービスで実現可能ですが、読み取りから読み上げまでをワンパッケージにしたアプリがあればさらに便利です。

将来的には、レストランのメニューなど街なかでも活用され、小型のコードリーダーとスマートフォンで識別できるようになれば、視覚障害者がより活動しやすい社会環境が実現できると思います。

長谷川 晋 認定NPO法人タートル 理事

出版社に勤務し、歴史、特別支援教育関連の雑誌、書籍の編集に携わる。とくに特別支援教育では、環境の調整と障害者の社会参加に興味をもつ。視覚障害者となってからは、パソコン、タブレット端末、拡大読書器を活用して、人事・管理の業務に従事する。認定NPO法人タートル理事。

入賞：西村 宏美 様

視覚障害者が打つレジをお客さんが協力。シールを貼ってバーコードを読み取る。

視覚障害者がスーパーでレジを担当するためには、商品についたバーコードを機械で読み取る必要があります。バーコードの位置を判別するのは難しいので、商品を購入するお客さんがレジに並ぶ前に、各商品のバーコードの近くにテープを貼ってもらうというアイデアを提案します。視覚障害者はそのテープを頼りにしてバーコードを機械に通すのです。とくに2人体制のレジなら、視覚障害者は金銭を扱わずにバーコードの読み取りに専念すればいいので、より実現可能だと思います。お客さんと店員が協力しあう和やかなレジになるでしょうし、協力してくれたお客さんには後日使えるクーポン券を差し上げれば、利用も増えそうです。

そんなふうに、お客さんが協力することをきっかけに、健常者と視覚障害者がふれあえる場が社会に広がることを願っています。

西村 宏美 ガイドヘルパー

事務職として就労し、点訳などのボランティア活動にも参加。長年、両親の看病や介護を務めた経験から、認知症患者などの傾聴にも心がけている。2017年に視覚障害者の同行援護資格を取得、2018年より視覚障害者の外出サポートを始めた。

受賞者パネル：パネル詳細（１５）

入賞：川口 育子 様

自ら望み、行動したことで得た 大舞台。朗読を仕事にするという夢に向かって。

網膜色素変性症で見えなくなっていく自分に何ができるかと考えた時、学生時代に放送部で全国大会に出場した経験から、声を使った仕事に就きたい思いが強くなりました。それを知人に話すと、プロの馬頭琴奏者との共演で、『スーホの白い馬』を朗読する機会を得ました。さらにそれがきっかけで、この3月10日、二条城での朗読芝居が決まりました。監督からは「視覚障害者だから採用したのではない」と嬉しい言葉をいただきました。朗読芝居の出演も、自ら望み行動した結果。どんな仕事もそうですが、人に何を与え自分が何を学ぶかが大事です。この舞台の価値が認められ、後援や協賛をいただくことができれば、仕事として成り立たせることも夢ではないと考えます。共生社会を目指す障がい者による芸術文化振興議員連盟の報告では、障害者の文化芸術活動に向けた支援を行う法律案が詠われています。国の支援も期待します。

川口 育子 契約社員

これまでに十数社ほどの会社に勤務しながら2人の子どもを育ててきた。現在は前職の実績を買われ、電話受付営業として勤務。支援センターで訓練を受けながら、本を出版しようとブログを執筆、ヒューマンライブラリーへの挑戦、NPOチャレンジド・フェスティバルに関わり、3月には二条城での朗読芝居に出演するなど、自分にできることを模索中。

入賞：井口 貴子 様

視覚障害者が正しい知識を得て、アロマセラピストになるために。

全盲の鍼灸マッサージ師の方から「サロンにアロマを取り入れたい」と相談を受けました。室内芳香を希望され、道具探しに苦労しましたが、使いこなせるものが見つかりました。さらに、精油のブレンドにも興味を持たれ、「精油をボディマッサージに取り入れたい」とのことでしたが、精油には禁忌事項もあるので、「認定資格を取得されては？」とアドバイスしました。

正しい知識を得るためには認定試験に合格することも重要。ただ、関東の一部のアロマスクールには視覚障害者が学習できるクラスがあるようですが、実情は点字の教本や音声図書などを持ち合わせない認定校がほとんどです。そこで、アロマスクールでの視覚障害者の受け入れや、アロマセラピーの教本（点字やデイジー）の充実、職業訓練校での選択科目（アロマに関する授業）の実施を提案します。

井口 貴子 アロマテラピーアドバイザー/ハーバルセラピスト

アロマテラピーアドバイザー資格認定（日本アロマ環境協会）、ハーバルセラピスト資格認定（日本メディカルハーブ協会）。自宅サロン「BELLE VIE」にて東洋医学の経絡ハンドと組み合わせたアロマトリートメントを実施。またアロマクラフトのワークショップを主宰。アロマブレンドデザイナーとして視覚障害者ヨガの会場などに香りを提供。

体験コーナー（１）

キッチンエリア

マグカップ、お茶碗、計量カップなどのキッチン用品を中心に、視覚障害者の方も使いやすい工夫がされた、日常生活の中で使える便利グッズの展示を行いました。またさまざまな形状のチップがついた白杖を設置し、エリア内を実際に歩いてみてもらえるようご案内しました。

リーディングエリア

拡大読書器やiPadアプリ、スミ字ガイドといった補助器具の展示を行い、実際に触っていただけるほか、健常者の方向けに体験メガネを使用した見え方の違いの説明なども行いました。また、点字の体験コーナーも設けました。

体験コーナー（２）

卓上POP：キッチンエリア

液体ブルーブ

RNIB（英国王立盲人協会）が開発した、
液体レベルインジケーター（表示器）です。

３本の端子が本体についていて、
２段階の深さを音で知らせてくれます。
音の違いによって、
液体の深さ（＝レベル）がわかります。

実際に体験してみよう！

液体ブルーブをつけたコップに、水を注いでみよう。

計量カップ

● 合ビタカップ
両面使いで、お米１合または 0.5 合を
計ることができる計量カップです。
すりきりの口を狭くすることで、
計量の精度を高める工夫をしています。

また底面が楕円形なので、
倒れても転がりにくくなっています。

計量カップ

● だんだん計量カップ
目盛りに合わせた段差の形状で、
液体の計量をわかりやすくした計量カップ。
上から一目で量をはかることができます。

● 計量カップ（3 個組）
50cc、100cc、200cc の３個が
一組になった計量カップ。
カップ内側に凸線の目盛がでているので、
指先で中身と目盛を確認しながら計量できます。
３個のカップを組み合わせることにより、
目盛を見なくても目的の量を計量できるので
より視力の低い方でも使いやすいアイテムです。

計量ポットさじかげん

本体を傾け、側面の凹部を押さえることで、
ワンプッシュで液体の計量ができるポットです。

調理時の調味料の計量に便利で、
醤油、お酒はもちろん、
酢やドレッシングにも使用できます。

おかるのキモチ。

丈夫で軽くて美しい、機能的なお茶碗。
椀の内側を細かい凹凸形状にすることで、
ごはん粒がくっつきにくくなっています。

青色は深い緋色に近い色で、ごはん粒が
白く立ってより美味しそうに見えるので、
視力の弱い方にもお勧めのお茶碗です。

ロービジョンマグカップ・プレート

見えにくさを感じている方々のリクエストから
生まれた、使いやすい工夫がいっぱいの
マグカップとプレート。

マグカップには、持ち手やフチに絵柄をつけて
位置をわかりやすくする工夫や、
鮮やかな色の絵柄で、飲み物の色を
識別しやすくする工夫がされています。
内側の絵柄のクロスサインは、
だいたい半分くらいまで注いだ、飲んだと
知らせてくれるサインにもなっています。

プレートは、お皿のフチやお皿の中心を
把握しやすい絵柄のデザインになっていて、
見える人も見えにくい人も、日常生活の中で
使いやすい機能的なアイテムです。

白杖を使って歩いてみよう

スタッフに気軽にお声がけください！

白杖を持っている人は、
全く目が見えていない方だけではありません。

例えば、視野が狭くなることで、
スマホが不自由なく使えても、
歩くことが苦手になる人もいます。

そんなとき活用されるのがこの白い杖。
障害や危険を避けるだけでなく、
視覚障害があることを周囲に認知してもらう
ことで、注意喚起的な役目も果たします。
それはより安全は歩行につながります。

卓上POP：リーディングエリア

点筆・点字器

点字は、視覚障害者の方の文字の読み書き、
読書、学習、コミュニケーションの手段
として用いられる文字です。

６つの点の組み合わせでできていて、
点筆と点字器を使って、紙に点を打つことで
文字として書くことができます。
また、点字を読むときには、
指先の触れた感触で文字を認識します。

実際に体験してみよう！

点字一覧表をみながら、
自分の名前を点字で打ってみよう。

スミ字ガイドセット

ペンなどで文字を書く為の簡易補助具。
（点字に対して、ペンなどで書いた文字の
ことを、“墨字”と言います）
長方形のシートを紙の上にのせて、
穴のあいた行の中に字を書いて使用します。

通常の縦書き／横書きのバリエーションの他、
郵便番号枠のついたレター用もあります。

サインなどを書く小さいサイズのタイプは、
文字を書くのに便利なほか、
文字を読むときに使用することで、
背景の白色の反射を抑えたり、
行の読み飛ばしを防ぐのにも効果的です。

MiYAKE スタンド

カメラ機能付きのタブレット型 PC を
卓上拡大器として利用するための
携帯性に優れたスタンドです。

下に置かれた書籍を拡大して閲覧したり、
爪切りやマニキュアなどの細かい作業を
ハンズフリーで拡大して
閲覧することができるアイテムです。

音声置時計

クリアな音質と見やすい文字の音声電波ク
ロックです。時刻、温度、湿度、日付・曜日
などを音声で知ることができます。

音声は日本語と英語の２ヵ国語から選択可能
なユニバーサルデザイン発想の時計です。

実際に体験してみよう！

本体上部のボタンを１回押すと、
時間を音声で聞くことができます。
（展示機器：トークライナー DA206）

iPad ／アプリケーション

印刷物や書籍、動画の閲覧補助をしてくれる
アプリケーションです。

●読書支援

ボイス オブ デイジー LITE ＝無料＝
DAISY 録音図書（印刷されたまま中一般的な電子書籍）を音声再生できる
アプリ。VoiceOver（スクリーンリーダー）を通じて操作でき、
文字の大きさや色、読み上げ速度やピッチを自由に変更できます。
※ DAISY は視覚障害者や、ディスレクシアなどの障害を持つ、通常の印
刷物を読むことが困難な方がそを読むための国際標準規格です。

UD ブラウザ ＝無料＝
教科書や教材等の書籍を閲覧するためのソフトです。メニューや文字選択
等を見やすくしてあり、キーボードからの操作やリフロー拡大も出来るよ
うになっています。

●映画鑑賞音声機能

UDCast ＝無料＝
映画や放送番組、Web 動画などの映像コンテンツに「音声ガイド」「日本
語字幕」「外国語字幕」を付与することで、バリアフリーにさせるサービ
スです。目の見えづらい、見えない方には、映像の内容を説明する副音声
による「音声ガイド」機能が便利です。

iPad ／アプリケーション

スマートフォンやタブレット型 PC の
カメラ機能を使った補助アプリケーションです。

●拡大読書器のような機能

「明るく大きく」＝無料＝
「明るく大きく」は、小さな文字などが読みにくい人のための
読字補助ツール。小さな文字を、色彩処理により「明るく」、「大きく」、
「くっきり」、とさせて、快適に読むための補助をします。
画面を静止させたり撮影することも可能です。

●音声読み上げ機能

「OCR Pro」＝有料：¥480＝
文字をカメラで読み取り、文字データに変換することで、
音声読み上げすることができるアプリです。
手書きの文字も認識することができます。

●色の識別アプリ

「Color Sayー世界をカラーで聞こうー」＝有料：¥600＝
カメラに映ったものの色を、文字で画面に表記します。
また音声での確認もできるので、視覚障害者の方でも
色の違いを区別することができます。
中央の枠を操作することで、スキャンエリアを
拡大／縮小することもできます。

拡大読書器

拡大読書器はデスクトップ型から携帯できる
ものまで、大きさや用途によって様々。
鮮明な画像を得ることができ、文字の拡大や
色反転などができる補助器具です。

実際に体験してみよう！

文字の拡大や白黒反転をしてみよう。
（展示機器：クリアビューC ＨＤ22）

体験メガネを使って、実際の見え方の違いを
体験することもできます。
お近くのスタッフまでお声がけください。

白黒反転ノート

弱視者用の黒い紙のメモ用紙で、
ポケットサイズなので持ち運びに便利です。

白のマジックで書くと白黒反転された
状態になり、とても見やすくなります。

（展示商品：ビジュアルイーズブラックミニ）

ロービジョン体験めがね

ロービジョンの方は全く見えないわけではありません。
100 人いれば 100 通りの症状（見え方）があると
言われています。こちらのめがねでは視野狭窄、白濁、
羞度近視を体験することができます。

視野狭窄
視界が狭くなる症状のことです。周りが見えずものにぶつかってし
まうので、症状によっては本は読めても、歩く際に白杖が必要だっ
たりします。代表的な症状のひとつでもあります。

白濁
曇ったように見える症状です。例えば、白内障にかかると水晶体が
すりガラスのように白く曇るために、このようにクリアな視界で
ものを見ることができなくなります。

羞度近視
近視は、近くのものが見やすく、遠くが見えにくい症状です。
物を近づけたり、文字を大きくしたりすると見えやすい場合が多く、
人によっては白黒反転でより見えやすくなる場合もあります。

実施報告

観覧者

● 1月15日(月)～21日(日) エキシビション来場者人数

合計			216
	1月15日(月)	合計	22
		キッチンエリア	16
		リーディングエリア	6
	1月16日(火)	合計	55
		キッチンエリア	31
		リーディングエリア	24
	1月17日(水)	合計	33
		キッチンエリア	22
		リーディングエリア	11
	1月18日(木)	合計	20
		キッチンエリア	13
		リーディングエリア	7
	1月19日(金)	合計	30
		キッチンエリア	22
		リーディングエリア	8
	1月20日(土)	合計	9
		キッチンエリア	6
		リーディングエリア	3
	1月21日(日)	合計	47
		キッチンエリア	37
		リーディングエリア	10

所感

・平日は、神戸アイセンター病院に来院される方を中心に、足を止めてご覧くださる方も多数いらっしゃいました。病院の診察を終えられた方が多く、午前に比べ午後にお立ち寄りいただく方が多い印象でした。

・キッチンコーナーの便利グッズをご覧くださる方が多く、実際に持ったり触ったり、試してみたいという声も多く聞かれました。

・便利グッズをご覧いただく方の中には、マグカップの軽量化や陶器製ではなく柔らかい素材やプラスチックの方が使いやすいといったご要望もある一方で、健常者の方から、使い勝手が良いので自分でも使いたいという声も聞かれました。

・補助器具などに関して詳しくご質問される方には、Vision Parkコンシェルジュの方にもお手伝いいただき、個別の対応をいたしました。

・足を止めてくださる方はお１人あたりの滞在時間が長く、熱心にお話をされる方もいらっしゃいました。

・受賞者の方から、パネルには応募用紙に記載した原文のまま掲載してほしいというお声がありましたが、応募されるみなさんの書き方や思いはそれぞれなので、来年はどのように対応していくか検討が必要だと感じられました。

そのほかのエキシビジョン

Grants4Apps Tokyo デモ機展示

21日(日)のイベント開催時のみ、Grants4Apps Tokyo 最終選考会に出場したファイナリストの希望者3組による、デモ機の展示を行いました。多くの方に体験いただき、出演者・来場者ともに満足度の高いコーナーとなりました。

▲ monoca project

▲OTON GLASS

▲QDレーザー

その他エキシビジョン風景

多くの方に、興味深く展示をご覧いただきました。
会場常設のVision Parkの立体模型を体験する来場者も多く見られました。

isee! innovation connections

isee! innovation connections 概要／スケジュール

isee! innovation connections

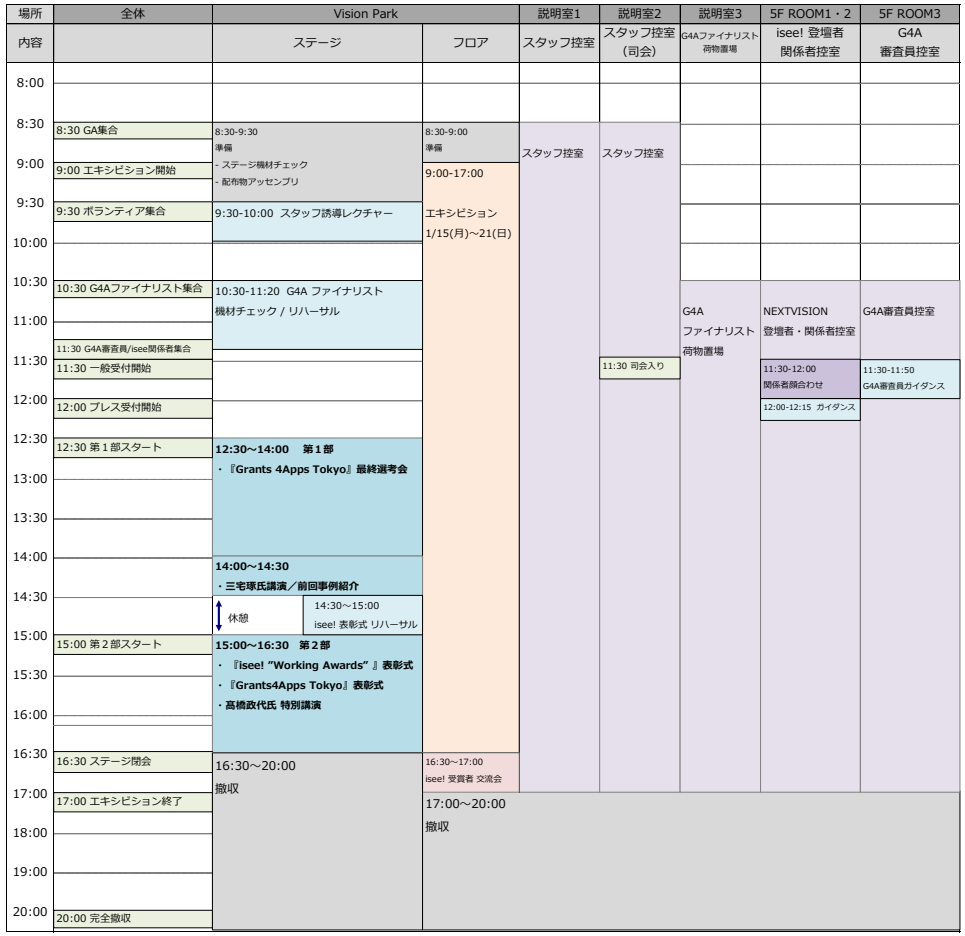
- 日時　1月21日（日）11:30 一般受付開始／12:30～16:30
- 会場　神戸アイセンター2階 Vision Park（ビジョンパーク）
- 構成　視覚障害の”今”を知ること×新しいデジタルヘルステクノロジーの開発で、視覚障害者のさらなる社会復帰促進を目指します。

  重篤な眼疾患治療から社会生活への復帰支援までを担うワンストップセンターとして、新たな複合施設『神戸アイセンター』がオープンします。そのオープンを記念して、2018年1月21日(日)、同会場にて『isee! innovation conections』を開催します。
  視覚障害者の”就労”に焦点をあて、その事例やアイデアが社会に広く認知されることを目的とした『isee! “Working Awards” 2018』。＜眼疾患患者さんをサポートする革新的なソリューション＞をテーマにした、デジタルヘルステクノロジー助成プログラム『第4回 Grants4Apps Tokyo』。この2つのアワードの共同開催となる『isee! innovation conections』では、一人でも多くの方に視覚障害者の可能性を知ってもらい、デジタルテクノロジーの力で、視覚障害者のよりよい暮らしと就労を支援することを目的としています。

- 内容　●12:30～14:00
  『第4回 Grants4Apps Tokyo』最終選考会
  『第4回 Grants4Apps Tokyo』の最終選考にノミネートされた5チームによるソリューションの発表を実施します。

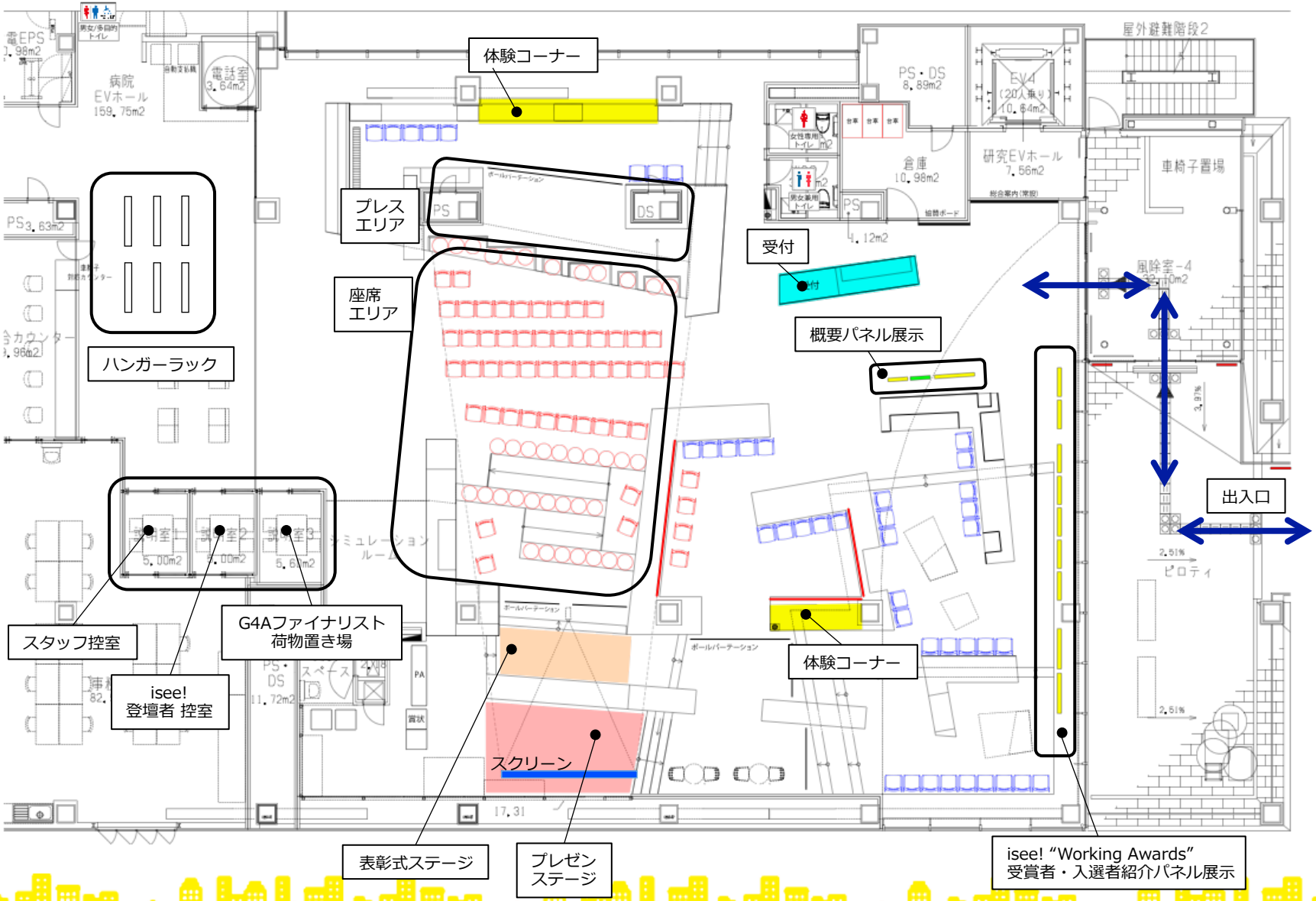
  ● 14:00～14:30［三宅琢氏講演］／［事例紹介：サンキューカード］
  ● 14:30～15:00［休憩］

  ● 15:00～16:30
  『isee! “Working Awards”2018』&
  『第4回 Grants4Apps Tokyo』表彰式
  『isee! “Working Awards”2018』の受賞者・入選者と『第4回 Grants4Apps Tokyo』の受賞者を表彰します。
  表彰式終了後には、髙橋政代氏による特別講演を行います。



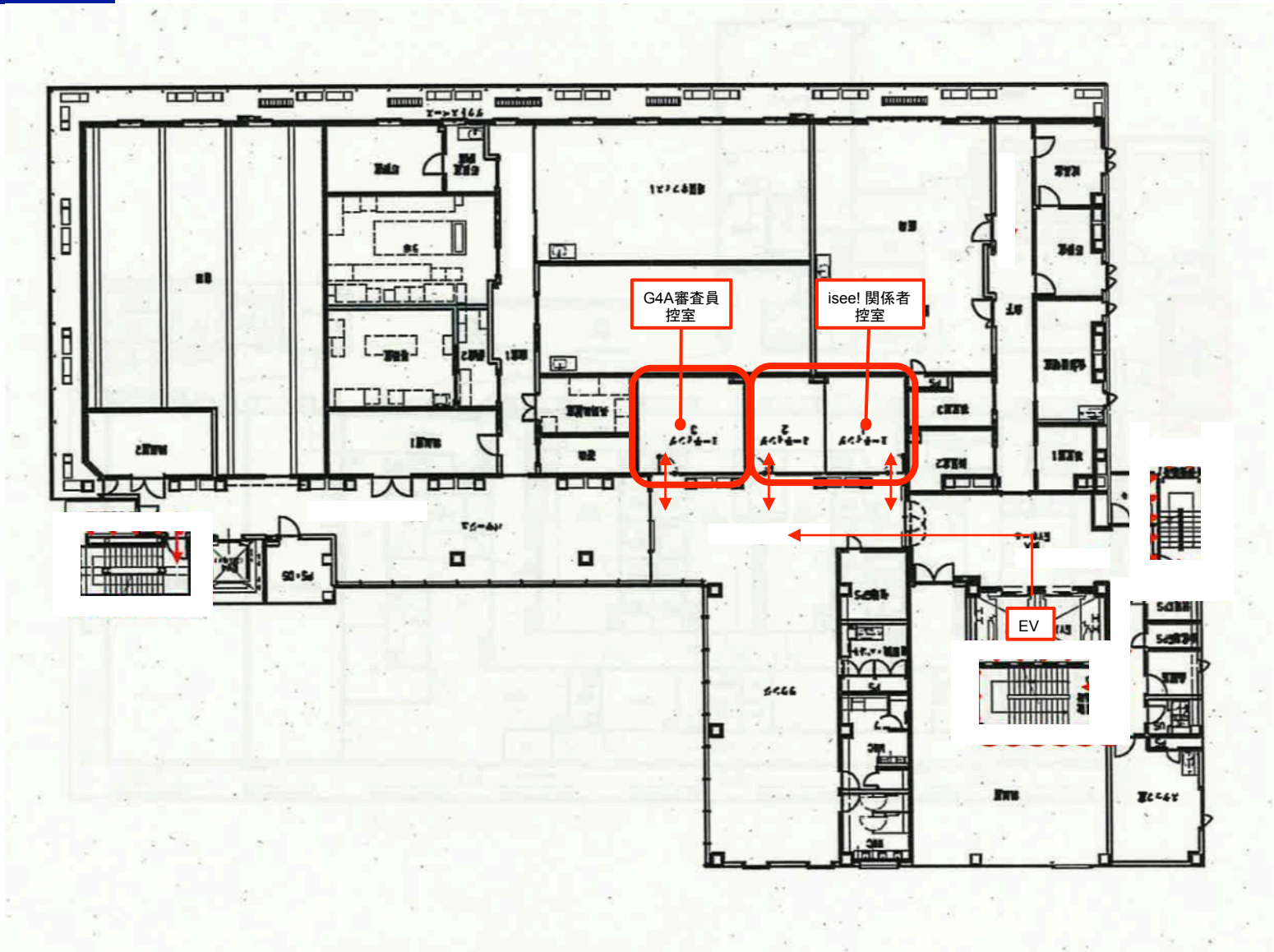
会場レイアウト（1）

2Fフロア



会場レイアウト（2）

5Fフロア（控室）



進行表（１）

開演～第１部～休憩

【第１部】

- **「第４回 Grants4Apps Tokyo」最終選考会**
- **【三宅琢氏講演】** Vision Park/isee!運動について
- **【事例紹介】サンキューカード**

Time	Lap	Program	Contents	Speaker	備考
11:30	1'00'00"	**開場・受付開始**			
「Grants 4Apps Tokyo」最終選考会					
12:30	(03'00")	開会	司会挨拶/概要説明	MC	
12:33	(01'00")		G4A概要説明	MC	
12:34	(03'00")		**・G4A主催者挨拶**	**高橋 俊一 様**	
12:37	(01'00")		・G4Aファイナリスト紹介	MC	
12:38	(06'00")	プレゼン(各チーム5分)	**・ファイナリスト① プレゼン**	**慶野 晋一 様（シミックヘルスケア）**	
12:44	(10'00")	質疑応答(各チーム10分)	**・ファイナリスト① 質疑応答**	**慶野 晋一 様（シミックヘルスケア）**	
12:54	(06'00")		**・ファイナリスト② プレゼン**	**堅田 侑作 様（慶應義塾大学医学部光生物学研究室）**	
13:00	(10'00")		**・ファイナリスト② 質疑応答**	**堅田 侑作 様（慶應義塾大学医学部光生物学研究室）**	
13:10	(06'00")		**・ファイナリスト③ プレゼン**	**菅原 充 様（QDレーザ）**	
13:16	(10'00")		**・ファイナリスト③ 質疑応答**	**菅原 充 様（QDレーザ）**	
13:26	(06'00")		**・ファイナリスト④ プレゼン**	**遠藤 知慎 様（monoca project）**	
13:32	(10'00")		**・ファイナリスト④ 質疑応答**	**遠藤 知慎 様（monoca project）**	
13:42	(06'00")		**・ファイナリスト⑤ プレゼン**	**島影 圭佑 様（OTON GLASS）**	
13:48	(10'00")		**・ファイナリスト⑤ 質疑応答**	**島影 圭佑 様（OTON GLASS）**	
13:58	(02'00")		司会挨拶	MC	
14:00		終了			
【三宅琢氏講演】／【事例紹介】					
14:00	(20'00")		**・【三宅琢氏講演】Vision Park／isee!運動について**	**三宅 琢 様**	
14:20	(02'00")		転換／登壇者紹介	MC	
14:22	(08'00")		**・【事例紹介】サンキューカード**	**神田 信 様**	
14:30		終了	休憩アナウンス	カゲMC	
14:30	(30'00")	**休憩（30分）**			

進行表（2）

第２部～終演

【第２部】

● 「isee! “Working Awards” 2018」表彰式

● 「第４回 Grants4Apps Tokyo」表彰式

● 【高橋政代氏 特別講演】

Time	Lap	Program	Contents	Speaker	備考
「isee! "Working Awards"」表彰式					
15:00	(03'00")		司会挨拶/概要説明	MC	
15:03	(03'00")		・isee!主催者挨拶	三宅 養三 様	
15:06	(02'00")		転換／事例部門紹介	カゲMC	
15:08	(03'00")	表彰（各受賞者3分）	・MIP賞 表彰①	受賞者①／三宅養三様	
15:11	(03'00")		・MSP賞 表彰②	受賞者②／三宅養三様	
15:14	(03'00")	撮影（各受賞者3分）	・MIP賞＋MSP賞 写真撮影	受賞者①・②／三宅養三様・高橋政代様・三宅琢様・仲泊聡様 受賞者①・②／審査員5名	
15:17	(01'00")		受賞者降壇・登壇／賞の紹介	カゲMC	
15:18	(03'00")		・MEP賞 表彰③	受賞者③／三宅養三様	
15:21	(03'00")		・METP賞 表彰④	受賞者④／三宅養三様	
15:24	(03'00")		・MEP賞＋METP賞　写真撮影	受賞者③・④／三宅養三様・高橋政代様・三宅琢様・仲泊聡様 受賞者③・④／審査員5名	
15:27	(01'00")		受賞者降壇・登壇／賞の紹介	カゲMC	
15:28	(03'00")		・価値転換賞 表彰⑤	受賞者⑤／三宅養三様	
15:31	(03'00")		・環境整備賞 表彰⑥	受賞者⑥／三宅養三様	
15:34	(03'00")		・ビジネスプラン賞 表彰⑦	受賞者⑦／三宅養三様	
15:37	(03'00")		・アイデア部門受賞者　写真撮影	受賞者⑤・⑥・⑦／三宅養三様・高橋政代様・三宅琢様・仲泊聡様 受賞者⑤・⑥・⑦／審査員5名	
15:40	(01'00")		受賞者降壇・入選者登壇／賞の紹介	カゲMC	
15:41	(03'00")		・事例部門入選者 表彰	事例部門入選者／三宅養三様	
15:44	(03'00")		・事例部門入選者 写真撮影	事例部門入選者／三宅養三様・高橋政代様・三宅琢様・仲泊聡様 事例部門入選者／審査員5名	
15:47	(01'00")		入選者降壇・登壇／賞の紹介	カゲMC	
15:48	(03'00")		・アイデア部門入選者 表彰	アイデア部門入選者／三宅養三様	
15:51	(03'00")		・アイデア部門入選者 写真撮影	アイデア部門入選者／三宅養三様・高橋政代様・三宅琢様・仲泊聡様 アイデア部門入選者／審査員5名	
15:54	(01'00")		司会挨拶	MC	
15:55		終了			
「Grants 4Apps Tokyo」表彰式					
15:55	(01'00")		司会挨拶／概要説明	MC	
15:56	(01'00")		ファイナリスト紹介	カゲMC	
15:57	(01'00")		・特別賞２組　発表	高橋 俊一 様	
15:58	(02'00")	表彰（各受賞者2分）	・特別賞２組 表彰	特別賞２組／高橋俊一様	
16:00	(02'00")	撮影（各受賞者2分）	・特別賞２組 写真撮影	特別賞２組／高橋俊一様・高橋政代様・仁木様	
16:02	(01'00")		・優秀賞2組/最優秀賞　発表	高橋 俊一 様	
16:03	(02'00")		・優秀賞2組 表彰	優秀賞2組／高橋俊一様	
16:05	(02'00")		・優秀賞2組 写真撮影	優秀賞2組／高橋俊一様・高橋政代様・仁木様	
16:07	(02'00")		・最優秀賞1組 表彰	最優秀賞1組／高橋俊一様	
16:09	(02'00")		・最優秀賞1組 写真撮影	最優秀賞1組／高橋俊一様・高橋政代様・仁木様	
16:11	(03'00")		・最優秀賞コメント	最優秀賞1組	
16:14	(02'00")		・ファイナリスト全員　写真撮影	ファイナリスト5組	
16:16	(02'00")		・審査員全員　写真撮影	高橋俊一様・高橋政代様・仁木様	
16:18	**(04'00")**		・審査員代表 総評	高橋 俊一 様	
16:22		終了			
【高橋政代氏講演】					
16:22	(08'00")		・【高橋政代氏講演】全体統括	高橋政代氏	
16:30		閉会	退場のご案内	カゲMC	

isee! “Working Awards”2018とは

isee! “Working Awards”2018とは

視覚障害者がいきいきと活躍する姿を知ってもらい、さらなる社会復帰を促進していきます。

＜実施の背景＞
日本の視覚障害者は164万人、うち全盲は18,8万人、145万人がロービジョン（弱視）と言われていますが、その全ての人が学び、働き、趣味やスポーツを楽しみながら生き生きとした生活を送ることが可能です。しかし、「就労」だけを取り上げてみると、残念ながらまだまだ視覚障害者の就労件数が少ないことがわかります。

＜isee! “Working Awards”とは＞
「isee! “Working Awards”」は「就労」に焦点をあて、視覚障害者（見えない、見えにくい人）がどのように働いているのか【事例】、また、どうすれば働けるのか、あるいはどんな働き方ができるか【アイデア】を募集し、【事例】【アイデア】を通じて視覚障害者だけでなく、社会に広く認知されることで視覚障害者の社会復帰、ひいては社会の戦力になることを目的としています。

審査員

【審査委員会議長】三宅 養三
【審査員】大胡田 誠、狩野 りか、津田 諭、初瀬 勇輔、播野 雅子、古川 民夫、樋口 一茂

賞について

上位に表彰状、入選者に入選賞状、そのほかの応募者に感謝状を贈呈。

事例部門

受賞者に「就業者＝Player」としての喜びを感じていただくこと
また今後の就業モチベーション向上を目的としてMVP（Most Value Player）表彰の要素を含ませ、「isee運動」のi.s.eの3文字を使って、「MIP、MSP、MEP、METP」の表彰を行う。

（1）MIP賞
Most Inclusive Player 賞 → 周囲の協力の活用

（2）MSP賞
Most Strength Player 賞 → 経験を強みとした

（3）MEP賞
Most Effort Player 賞 → 継続的な努力

（3）METP賞
Most Edgy Technology Player 賞 → 最新技術の活用

アイデア部門

（1）価値転換賞
→ 障がい（弱み）を強みとする発想転換のアイデア

（2）環境整備賞
→ ロービジョンの方の就業促進に配慮した環境整備・啓蒙活動に関するアイデア

（3）ビジネスプラン賞
→ 実現可能性とビジネス要素を多く含んだアイデア

第4回 Grants4Apps Tokyoとは

第4回 Grants4Apps Tokyo とは

革新的なデジタルヘルステクノロジーを支援する、バイエル薬品のオープンイノベーションプログラムです。2013年にドイツ・バイエル社のグローバルプロジェクトとして始動し、日本では2016年より開始しました。バイエル薬品から、「ライフサイエンスに関するテーマ」として毎回異なる課題を順次提示し、革新的なデジタルヘルス・スタートアップから各課題に対するソリューションを募集しました。今回は、「眼疾患患者さんをサポートする革新的なデジタルソリューション」をテーマに、眼疾患の予防から治療、患者さんの就労などに寄与する革新的なデジタル技術を募集し、その中から選ばれた5チームが最終選考会へと挑みます。

テーマ

眼疾患患者さんをサポートする革新的なデジタルソリューション

審査・表彰

・上位3チームに助成金（最優秀賞40万円、優秀賞2チームに各々30万円）を贈呈
・最終選考にノミネートされた全5チームにトロフィー・賞状を贈呈

・ノミネート全5チームのソリューションの内容に応じて下記を提供
ーNEXT VISIONから、ソリューション開発に対する医療上のアドバイスの提供
ー神戸アイセンターで実際に患者さんに活用していただく機会の提供に向けた支援

審査員

・髙橋 政代（公益社団法人NEXT VISION理事）
・仁木 宏一（有限責任監査法人トーマツ　パートナー）
・高橋 俊一（バイエル薬品　オープンイノベーションセンター）

賞について

ファイナリスト全員に、トロフィー・賞状を贈呈。また、上位賞受賞者3組には助成金が贈られます。

（1）最優秀賞	1チーム	賞状・トロフィー・助成金40万円の贈呈
（2）優秀賞	2チーム	賞状・トロフィー・助成金30万円の贈呈
（3）特別賞	2チーム	賞状・トロフィーの贈呈

第１部：第４回Grants4Apps Tokyo 最終選考会（１）

１組目：シミックヘルスケア　鹿野 晋一氏

眼病の早期発見を目的とした、気軽にできる眼病セルフチェックアプリケーションの開発について発表いただきました。

２組目：慶應義塾大学医学部光生物学研究室　堅田 侑作氏

糖尿病三大合併症の糖尿病網膜症の治療に関する、人工知能を用いた医療機器プログラムの開発について発表いただきました。

第１部：第４回Grants4Apps Tokyo 最終選考会（２）

３組目：QDレーザー　菅原 充氏

新たなロービジョンケアとして、網膜に直接レーザーを照射して見るという網膜投影技術を発表いただきました。

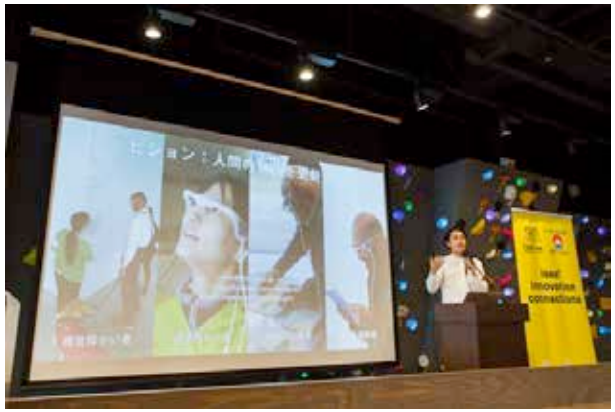
４組目：monoca project　遠藤 知慎氏

視覚障害者の移動支援の際に、当事者とガイドそれぞれが使用できる新たなアプリケーションの開発について発表いただきました。

第１部：第４回Grants4Apps Tokyo 最終選考会（３）

５組目：OTON GLASS　島影 圭佑氏

目線の先に見えるものを音声読み上げしてくれる、メガネ型のIoT機器、「OTON GLASS」を発表いただきました。



【質疑応答：会場の様子】

各ファイナリストのプレゼン後には、審査員による質疑応答が行われました。

第１部：　【三宅琢氏講演】

株式会社　Studio Gift Hands 代表取締役
公益社団法人NEXT VISION COO、
東京大学先端科学技術研究センター　人間支援工学分野　特任研究員
産業医・眼科専門医

三宅 琢氏

三宅琢氏にご登壇いただき、isee!運動の取り組みの説明や、
Vision Parkのコンセプトや機能・役割についてお話いただきました。

第１部：【事例紹介】サンキューカード

2016年度「isee! “Working Awards”」
【アイデア部門】環境整備賞　受賞者

神田 晋氏

「isee! “Working Awards”」前回受賞者の神田晋さんが昨年応募したアイデアを元に
実現した「サンキューカード」のお披露目を行い、その取り組みをお話いただきました。

第２部：isee! “Working Awards”2018 表彰式（１）

事例部門

事例部門の４つの賞、MIP（Most Inclusive Player）賞、MSP（Most Strength Player）賞、MEP（Most Effort Player）賞、METP（Most Edgy Technology Player）賞を受賞した方へ、審査委員長 三宅養三氏より賞状が贈られました。

第２部：isee! “Working Awards”2018 表彰式（２）

アイデア部門

アイデア部門の3つの賞、価値転換賞、環境整備賞、ビジネスプラン賞を受賞した方へ、審査委員長 三宅養三氏より賞状が贈られました。

第２部：isee! “Working Awards”2018 表彰式（３）

入選

事例部門、アイデア部門それぞれに入選した方へ、審査委員長 三宅養三氏より賞状が贈られました。

【事例部門入選】

【アイデア部門入選】

第２部：isee! “Working Awards”2018 表彰式（４）

総評

NEXT VISION 代表理事、愛知医科大学理事長・名古屋大学名誉教授 三宅養三審査委員長より、総評を頂きました。

第２部：Grants4Apps Tokyo 表彰式（１）

最優秀賞　　**OTON GLASS　島影 圭佑氏**

第２部：Grants4Apps Tokyo 表彰式（２）

優秀賞

・QDレーザー　菅原 充氏

・慶應義塾大学医学部光生物学研究室　堅田 侑作氏

特別賞

・monoca project　遠藤 知慎氏

・シミックヘルスケア　鹿野 晋一氏

第２部：Grants4Apps Tokyo 表彰式（３）

集合写真

総評

Grants4Apps Tokyo 審査員もつとめられた、
バイエル薬品　オープンイノベーションセンター　高橋 俊一センター長より、総評を頂きました。

第２部：【髙橋政代氏講演】

公益社団法人NEXT VISION　理事
理化学研究所 多細胞システム形成研究センター
網膜再生医療研究開発プロジェクト プロジェクトリーダー

髙橋 政代氏

髙橋 政代氏にご登壇いただき、アワードの統括コメントのほか、
現在の再生医療における神戸アイセンター設立の意義をお話いただきました。

実施報告

観覧者

※報道関係者をのぞく

● 1月21日(日) イベント来場者人数

合計			95
登壇者	G4A	ファイナリスト	5
	G4A	審査員	3
	isee!	受賞者	16
	isee!	入選者	9
	isee!	審査員	6
	isee!	登壇者	3
関係者	G4A	ファイナリスト同行者	2
	isee!	受賞者同行者	12
	isee!	入選者同行者	7
	主催関係者		6
一般参加者			26

募金参加人数			14

所感

・isee! ”Working Awards”の受賞者は、付き添いの方と一緒に来場する方や比較的歩行に慣れていらっしゃる方が多かったため、特別なアテンドが必要な方はそれほど多くなく、無事事故もなく終えることができました。

・ステージ下手袖への導線が入り組んでいたため、リハーサル時には誘導に少し時間がかかりましたが、一度のリハーサルで皆さんにイメージをつかんでいただくことができ、本番は想定よりも大幅に短い時間でスムーズに進めることができました。

・前回の受賞者からの声を反映し、イベント終了後に30分ほど交流できる時間を設けていたため、みなさんで記念撮影などをされている様子が印象的でした。

・初めて視覚障害者のアテンド対応したスタッフが大半でしたが、当日の事前研修によって注意事項を理解することができ、意識的に声をかけた誘導につとめることができました。

・会場のボランティアスタッフにも5名お手伝いいただきましたが、オープンすぐということもありうまく連携することができなかったため、来年以降はこのシステムを活用した運営方法を検討できれば、より良いのではないかと感じました。

・会場レイアウトが難しく、ステージが見える椅子の数は限られてしまいましたが、既存のスクリーンをバックにステージを設置したことで、会場内の一体感が生まれ、来場者の方にVision Parkの魅力や特徴を伝えられるイベントとなりました。

・展示コーナーがステージのすぐ近くだったこともあり、展示物をじっくり見たり実際に体験したりしてくださる来場者の方が多く、視覚障害者の方にも触って楽しめる満足度が高かった様子でした。

・isee! “Working Awards”とGrants4Apps Tokyoの2つのアワードによる共同開催ということで、ソリューションの開発者・研究者と当事者の方が一堂に会す機会はとても画期的でした。特に、G4Aのデモ機展示のコーナーでは、isee!受賞者が体験している様子も多く見られ、 G4Aファイナリストにとっても生の声を聞くことができる貴重な機会になったのではないかと思います。

運営：グリーンオペレーション

会場での取り組み（１）

事前研修

Vision Parkコンシェルジュで歩行訓練士の別府あかねさんを講師に、
当日の運営スタッフに、目の見えない方のご案内に際しての注意事項
や必要となる接遇について30分程度の研修を行いました。
Vision Parkボランティアの方5名にもご参加いただき、
実践的な研修の場となりました。

駅や会場入口での誘導

1月21日(日)のイベント当日には、
目の見えない方やロービジョンの方の
アテンドのため、駅前に誘導スタッフを
配置し、誘導しました。

コミュニケーションチャーム着用

コミュニケーションチャームとは「困っていたら私に声をかけてください！」、「ハンディがある方をサポートをします！」という意思を表明してくれた方に、そのサインとして身に付けてもらうチャームです。
会場内の誘導スタッフは、コミュニケーションチャーム全員着用しました。

※ 視覚障害者の方にも気づいてもらいやすいように、「鈴」をつけて対応

グリーン電力の導入

会場内で使用する電力のうち1000kWhは、バイオ発電のグリーン電力でまかない、
エネルギーによる環境負荷の削減に貢献しました。

※グリーン電力とは、風力、太陽光、バイオマス（生物資源）などの自然エネルギーにより発電された電力のことです。
石油や石炭などの化石燃料による発電は、発電するときにCO2（二酸化炭素）が発生しますが、自然エネルギーによる発電は発電するときにCO2を発生しないと考えられています。

会場風景（１）

受付

一般参加者受付／受賞者・関係者受付／プレス受付を設置。
受付前にもスタッフを配置して、積極的に声をかけて該当する受付へご案内しました。

会場風景

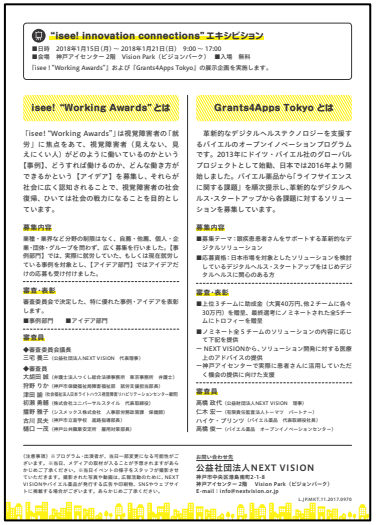
初めてVision Parkへ訪れた方が多かったため、コンシェルジュの方にもご協力いただき会場のご案内・誘導を行いました。終演後には記念撮影される方の姿も多く見られ、みなさんの交流の場になりました。

会場風景（2）

サイン・掲示物など

制作物（１）

【チラシ】A4 両面カラー 両面 600部



【ポスター】A3 片面カラー20部

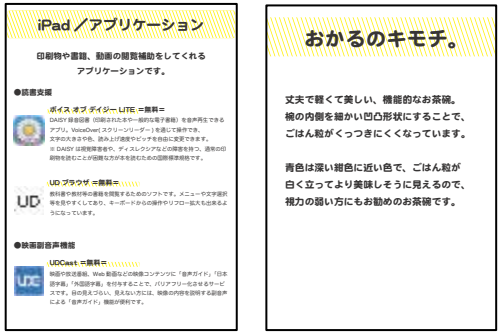
【当日用パンフレット】A3二つ折り 両面カラー 500部

制作物（２）

【ステージバナー】
H1500mm×W800mm 自立 2式

【入口パネル】
A2 7mm厚パネル 3枚

【展示用卓上POP】
A5 片面カラー アクリルスタンド 16枚



【展示パネル各種】
- 会場MAPパネル：A0 7mm厚パネル 1枚
- 概要パネル：A1 7mm厚パネル 2枚
- 冒頭パネル：A1 7mm厚パネル 2枚
- 受賞者パネル：A0 7mm厚パネル 7枚

制作物（３）

isee! “Working Awards”

【受賞者用缶バッジ】

isee! “Working Awards”の受賞者全員に缶バッジをお渡し、胸元につけていただきました。

【オリジナルピンバッジ】

isee!運動オリジナルのピンバッジを作成。
関係者の方を中心に配布し、一般の方にも
ご寄付いただいたお礼にお渡ししました。

Grants4Apps Tokyo

【トロフィー】

Grants4Apps Tokyo 受賞者特典として、
オリジナルトロフィーを製作。
手触りも楽しめ、あたたかみのある国産の杉材を使用
することで、視覚障害者の方が多く来場された本イベ
ントのコンセプトにも合ったトロフィーになりました。

制作物（４）

【賞状】事例部門：受賞

表彰状

!see! "Working Awards"
事例部門
MIP賞
Most Inclusive Player

大橋 正彦殿

あなたは isee! "Working Awards" に応募され、周囲の協力の活用や関係性を構築した就労により、我々に様々な知識と深い考察を与えてくれました。これは視覚障害者の就労促進に寄与されるものであり、よってこれを賞します。

平成30年1月21日
公益社団法人NEXT VISION
代表理事
三宅 養三

表彰状

!see! "Working Awards"
事例部門
MIP賞
Most Inclusive Player

的場 孝至殿

あなたは isee! "Working Awards" に応募され、周囲の協力の活用や関係性を構築した就労により、我々に様々な知識と深い考察を与えてくれました。これは視覚障害者の就労促進に寄与されるものであり、よってこれを賞します。

平成30年1月21日
公益社団法人NEXT VISION
代表理事
三宅 養三

表彰状

!see! "Working Awards"
事例部門
MSP賞
Most Strength Player

吉川 典雄殿

あなたは isee! "Working Awards" に応募され、経験を強みとした就労により、我々に幅広い情報と大きな叡智を与えてくれました。これは視覚障害者の就労促進に寄与されるものであり、よってこれを賞します。

平成30年1月21日
公益社団法人NEXT VISION
代表理事
三宅 養三

表彰状

!see! "Working Awards"
事例部門
MSP賞
Most Strength Player

山本 旭彦殿

あなたは isee! "Working Awards" に応募され、経験を強みとした就労により、我々に幅広い情報と大きな叡智を与えてくれました。これは視覚障害者の就労促進に寄与されるものであり、よってこれを賞します。

平成30年1月21日
公益社団法人NEXT VISION
代表理事
三宅 養三

表彰状

!see! "Working Awards"
事例部門
MSP賞
Most Strength Player

福島 憲太殿

あなたは isee! "Working Awards" に応募され、経験を強みとした就労により、我々に幅広い情報と大きな叡智を与えてくれました。これは視覚障害者の就労促進に寄与されるものであり、よってこれを賞します。

平成30年1月21日
公益社団法人NEXT VISION
代表理事
三宅 養三

表彰状

!see! "Working Awards"
事例部門
MSP賞
Most Strength Player

阿部 久殿

あなたは isee! "Working Awards" に応募され、経験を強みとした就労により、我々に幅広い情報と大きな叡智を与えてくれました。これは視覚障害者の就労促進に寄与されるものであり、よってこれを賞します。

平成30年1月21日
公益社団法人NEXT VISION
代表理事
三宅 養三

表彰状

!see! "Working Awards"
事例部門
MEP賞
Most Effort Player

六川 真紀殿

あなたは isee! "Working Awards" に応募され、就労に対して継続的な努力・支援を重ねられ、視覚障害者の就労及び支援活動に新たな風を吹き込まれました。これは視覚障害者の就労に対する大きな貢献であり、よってこれを賞します。

平成30年1月21日
公益社団法人NEXT VISION
代表理事
三宅 養三

表彰状

!see! "Working Awards"
事例部門
MEP賞
Most Effort Player

木暮 雅寿殿

あなたは isee! "Working Awards" に応募され、就労に対して継続的な努力・支援を重ねられ、視覚障害者の就労及び支援活動に新たな風を吹き込まれました。これは視覚障害者の就労に対する大きな貢献であり、よってこれを賞します。

平成30年1月21日
公益社団法人NEXT VISION
代表理事
三宅 養三

表彰状

!see! "Working Awards"
事例部門
MEP賞
Most Effort Player

藤田 善久殿

あなたは isee! "Working Awards" に応募され、就労に対して継続的な努力・支援を重ねられ、視覚障害者の就労及び支援活動に新たな風を吹き込まれました。これは視覚障害者の就労に対する大きな貢献であり、よってこれを賞します。

平成30年1月21日
公益社団法人NEXT VISION
代表理事
三宅 養三

表彰状

!see! "Working Awards"
事例部門
METP賞
Most Edgy Technology Player

伊敷 政英殿

あなたは isee! "Working Awards" に応募され、最新の技術や知識を用いた就労により、我々に新しい知見を与えてくれました。これは視覚障害者の就労促進に寄与するものでありよってこれを賞します。

平成30年1月21日
公益社団法人NEXT VISION
代表理事
三宅 養三

表彰状

!see! "Working Awards"
事例部門
METP賞
Most Edgy Technology Player

岸本 将志殿

あなたは isee! "Working Awards" に応募され、最新の技術や知識を用いた就労により、我々に新しい知見を与えてくれました。これは視覚障害者の就労促進に寄与するものでありよってこれを賞します。

平成30年1月21日
公益社団法人NEXT VISION
代表理事
三宅 養三

制作物（５）

【賞状】アイデア部門：受賞

表彰状

isee!"Working Awards"
アイデア部門
価値転換賞

矢野 貴美子殿

あなたは isee! "Working Awards" に応募され、障害を強みとする発想を転換したアイデアにより、障害の価値を見出してくださいました。これは視覚障害者の就労促進に寄与するものであり、よってこれを賞します。

平成30年1月21日
公益社団法人NEXT VISION
代表理事
三宅 養三

表彰状

isee!"Working Awards"
アイデア部門
価値転換賞

NPO法人ウェルネスハート
withミートアップチーム殿

あなたは isee! "Working Awards" に応募され、障害を強みとする発想を転換したアイデアにより、障害の価値を見出してくださいました。これは視覚障害者の就労促進に寄与するものであり、よってこれを賞します。

平成30年1月21日
公益社団法人NEXT VISION
代表理事
三宅 養三

表彰状

isee!"Working Awards"
アイデア部門
環境整備賞

神田 信殿

あなたは isee! "Working Awards" に応募され、視覚障害者の就労に配慮した環境整備・啓蒙活動に関するアイデアを創造してくださいました。これは視覚障害者の就労促進に寄与するものであり、よってこれを賞します。

平成30年1月21日
公益社団法人NEXT VISION
代表理事
三宅 養三

表彰状

isee!"Working Awards"
アイデア部門
環境整備賞

伴 英軌殿

あなたは isee! "Working Awards" に応募され、視覚障害者の就労に配慮した環境整備・啓蒙活動に関するアイデアを創造してくださいました。これは視覚障害者の就労促進に寄与するものであり、よってこれを賞します。

平成30年1月21日
公益社団法人NEXT VISION
代表理事
三宅 養三

表彰状

isee!"Working Awards"
アイデア部門
環境整備賞

井上 直也殿

あなたは isee! "Working Awards" に応募され、視覚障害者の就労に配慮した環境整備・啓蒙活動に関するアイデアを創造してくださいました。これは視覚障害者の就労促進に寄与するものであり、よってこれを賞します。

平成30年1月21日
公益社団法人NEXT VISION
代表理事
三宅 養三

表彰状

isee!"Working Awards"
アイデア部門
ビジネスプラン賞

stera 殿

あなたは isee! "Working Awards" に応募され、実現可能性とビジネス要素を含んだ視覚障害者の就労に関するアイデアを提案してくださいました。これは視覚障害者の就労促進に寄与するものであり、よってこれを賞します。

平成30年1月21日
公益社団法人NEXT VISION
代表理事
三宅 養三

表彰状

isee!"Working Awards"
アイデア部門
ビジネスプラン賞

鈴木 貴達 殿

あなたは isee! "Working Awards" に応募され、実現可能性とビジネス要素を含んだ視覚障害者の就労に関するアイデアを提案してくださいました。これは視覚障害者の就労促進に寄与するものであり、よってこれを賞します。

平成30年1月21日
公益社団法人NEXT VISION
代表理事
三宅 養三

制作物（６）

【賞状】事例部門：入選

【賞状】アイデア部門：入選

制作物（７）

【賞状】事例部門：感謝状

【賞状】アイデア部門：感謝状

制作物（８）

【PASS】

対象：運営スタッフ

対象：一般来場者

対象：報道関係者

対象：審査員/登壇者/関係者

対象：G4Aファイナリスト

対象：isee! 受賞者

制作物（９）

【サイン】

isee! innovation connections
Grants4Apps 東京 Tokyo
体験コーナー
キッチンエリア

isee! innovation connections
Grants4Apps 東京 Tokyo
体験コーナー
リーディングエリア

白杖を使って歩いてみよう
スタッフに気軽にお声がけください

白杖を持っている人は、
全く目が見えていない方だけではありません。

例えば、視野が狭くなることで、
スマホが不自由なく使えても、歩くことが苦手になる人もいます。

そんなとき活用されるのがこの白い杖。
障害や危険を避けるだけでなく、視覚障害があることを
周囲に認知してもらい、注意喚起的な役目も果たすことで、
より安全な歩行につながります。

isee! innovation connections
Grants4Apps 東京 Tokyo
説明室１
スタッフ控室

isee! innovation connections
Grants4Apps 東京 Tokyo
説明室２
スタッフ控室

isee! innovation connections
Grants4Apps 東京 Tokyo
説明室３
関係者控室

isee! innovation connections
Grants4Apps 東京 Tokyo
Grants4Apps Tokyo
審査員控室

isee! innovation connections
Grants4Apps 東京 Tokyo
isee! “Working Awards”
関係者控室

isee! innovation connections
Grants4Apps 東京 Tokyo
プレスエリア

isee! innovation connections
Grants4Apps 東京 Tokyo
一般参加者
受 付

isee! innovation connections
Grants4Apps 東京 Tokyo
受賞者・関係者
受 付

isee! innovation connections
Grants4Apps 東京 Tokyo
プレス受付